



第46回（令和6年度）

全日本中学生水の作文コンクール

熊本県審査会入賞作品集 「水について考える」

＊応募数23年連続日本一＊



主催：熊本県、内閣官房水循環政策本部、国土交通省

後援：熊本県教育委員会、熊本県中学校長会、熊本日日新聞社

※作文の表記は基本的に原文のままとしていますが、一部訂正している箇所がありますので御了承ください。

第四十六回「全日本中学生水の作文コンクール」熊本県審査会入賞作品集「目次」

☆第四十六回「全日本中学生水の作文コンクールについて」	3
☆応募募校一覧	4
☆学校賞・学校奨励賞一覧	5

【水の作文大賞】五編

○水の大切さを知って	熊本信愛女学院中学校	一年	尾田 雛子	7
○未来を支える地産地消	八代市立第八中学校	三年	稲田 侑子	8
○じまんの水	八代市立第八中学校	一年	田代 優羽	9
○限りある資源を守るために	真和中学校	三年	松本 佳子	10
○当たり前にありがとう	嘉島町立嘉島中学校	一年	橋本 栞奈	11

【熊本県賞】五編

○熊本本の誇り	八代市立第八中学校	二年	上田 真子	12
○「節水」とは何か	嘉島町立嘉島中学校	三年	山口 由華	13
○水の機嫌は私たちしだい	氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校	一年	小田 倅輝	14
○水とくせ毛との毎日	熊本県立八代中学校	二年	元山 実乃莉	15

○海の豊かさを守ろう

熊本県立八代中学校

二年 池田 遥 16

【入選】三十七編

○熊本の地下水（三隅満花）	17
○自分に一番近い存在（早野舞桜）	18
○水と共に生きる（古島美空）	19
○二度の断水を経験して（西聡真）	20
○世界の水を救うために（井上桜雅）	21
○必要な水（小堀草太朗）	22
○共に過ごす「水」（川端星奈）	23
○教訓をもとに（重並リナ）	24
○大好きな川の守り方（古閑迫凜）	25
○安全で美味しい水を当たり前に（中村慧）	26
○身近な水といのち（頼藤維生）	27
○水を尊ぶ（大仁田勇人）	28
○美しい熊本の水（秋永奈央）	29
○水の大切さ（川口丈太郎）	30
○子供たちの命と未来のために（浦中美恋）	31
○快適に暮らすために（遠山響）	32
○今私たちにできることは（池田圭吾）	33
○世界に誇れる熊本の水（北川奏羽）	34
○自然の賜物（杉村颯斗）	35

○世界一汚い水（上野こはる）	36
○命の水（矢野愛佳）	37
○水にありがとう（橋本実旺）	38
○循環している水（絹川優渚）	39
○水への感謝（森北頼斗）	40
○お風呂に浸かるという事（山本智穂）	41
○水資源と私たちの未来（野村桃花）	42
○真っ直ぐ前へ（清永皐樹）	43
○夏のデトックスウォーター（柏原昂太）	44
○生命の水（白濱蘭）	45
○一日に出会う水の形（杉本理采子）	46
○「あたりまえの水、あたりまえではない世界」（川本美空）	47
○水の変身（香西未宙）	48
○世界の水について（窪田晃雅）	49
○水のおそろしさ（芳崎美空）	50
○「今さらだけど……」（春崎菜々子）	51
○関係ないんじゃない（西坂向日葵）	52
○無限の価値（小澤桃）	53

【中央審査会 上位入賞作品】

55～64

第46回「全日本中学生水の作文コンクール」について

「全日本中学生水の作文コンクール」は、「水の日」及び「水の週間」行事の一環として、次代を担う中学生を対象に、広く水に対する関心を高め、理解を深めることを目的として、国土交通省及び各都道府県の主催で実施してきました。平成26年3月に成立した水循環基本法で8月1日が「水の日」として法定化され、平成26年度からは政府全体の取り組みとなりました。

1 応募要領

- (1) 名 称…第46回「全日本中学生水の作文コンクール」
- (2) 課 題…水について考える（題名は自由）
- (3) 原稿枚数…400字詰原稿用紙4枚以内
- (4) 募集期間…令和6年4月1日～令和6年5月13日
- (5) 審 査…○熊本県審査会 5月28日～5月30日
○中央審査会（国土交通省）6月30日

2 応募状況

	学校数 (校)	総数 (編)	学年別（編）		
			1年	2年	3年
熊本県	9	809	242	385	182
全 国	228	7,516			

※熊本県は、23年連続日本一の応募数です。

3 審査

(1) 熊本県審査会

応募作品の中から事前審査を通過した47編を対象に、5月28日～5月30日に行われた熊本県審査会において、水の作文大賞5編（5編とも中央審査会へ推薦）、熊本県賞5編、入選37編、学校賞4校、学校奨励賞2校を選定しました。

〔審査員〕（順不同 敬称略）

職 名	氏 名
株式会社熊本日日新聞社 編集局 読者・新聞学習センター NIE 担当部長	箕島 竜己
熊本県中学校国語教育研究会会長 熊本市立楠中学校長	平生 典子
熊本県知事公室 広報グループ課長	清水 英伸
熊本県教育庁市町村教育局 義務教育課長	井手 正直
熊本県環境生活部環境局 環境立県推進課長	原田 義隆

(2) 中央審査会（国土交通省）

全国の地方審査を経て選出された中から、入賞者（40編）が決定しました。本県からは、八代市立第八中学校3年稲田侑子さん、1年田代優羽さんが入選しました。

第46回(令和6年度)「全日本中学生水の作文コンクール」応募校一覧

たくさんの応募をありがとうございました。
引き続き来年度の応募もよろしくお願いします。

	所管	学校名
1	上益城	嘉島町立嘉島中学校
2	八代	八代市立第八中学校
3		氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校
4	天草	天草市立新和中学校
5	玉名	玉名市立玉陵中学校
6	県立	熊本県立玉名高等学校附属中学校
7		熊本県立八代中学校
8	私立	真和中学校
9		熊本信愛女学院中学校

＜熊本県＞ 応募校数：9校
応募作品：809編（※23年連続日本一）

＜全国＞ 応募校数：228校
応募作品：7,516編

第46回「全日本中学生水の作文コンクール」熊本県審査 学校賞・学校奨励賞 一覧

【学校賞】※応募率が70%以上

八代市立第八中学校	氷川町及び八代市中学校 組合立氷川中学校	熊本信愛女学院中学校
真和中学校		

【学校奨励賞】※学校賞以外で応募率が50%以上

嘉島町立嘉島中学校	天草市立新和中学校	
-----------	-----------	--

※応募率は、全校生徒数に対する応募生徒数の割合です。

熊本県の応募数は
23年連続日本一！

第47回コンクールも、たくさんの
応募をお待ちしています。

日々の生活の中で実感した水の
大切さ、水にまつわる経験、聞いた
話や学んだことをもとに「水」に

熊本県審査

- 水の作文大賞 5編
(賞状及び副賞：図書カード)
- 熊本県賞 5編
(賞状及び副賞：図書カード)
- 入 選 37編
(賞状及び副賞：図書カード)
- 学 校 賞 4校
(賞状及び副賞：図書カード)
- 学校奨励賞 2校
(賞状及び副賞：図書カード)
- 参 加 賞 応募者全員
(オリジナル蛍光ペン)



水の国 くまもと

熊本県審査会

入賞作品

【水の作文大賞】

水の大切さを知って

熊本県 熊本信愛女学院中学校 一年 尾田 雛子

阿蘇にある白川水源に家族で出かけた。白川水源の水はにごってなく、透明でとてもきれいだった。

水源の近くに、和紙をつくれる所があった。そこで私は、初めて和紙をつくった。和紙は完成するまでに、原料を煮たり混ぜたり洗浄したりと、水を使う工程がいくつもあった。だから、和紙を作るには、水が非常に重要な働きをすることが分かった。

白川水源では毎分およそ六十トンもの水が湧いているそうで、実際に水源の池の底を見ると、砂の動きで水がどんどん湧いているのが分かった。きれいな水がたくさんあるこの場所だから和紙作りができるのだ。

今年、同じように水が必要とする工場が菊陽町にできた。この工場では半導体の製造のために大量の水を必要とするので、熊本地下水を守ることができるのか不安に思う住民もいるというニュースを見た。水が足りなくなると、私達の生活はどのように変わるのだろうか。

水が不足している発展途上国では、雨水を貯めておいたり、遠くの水源地まで、汲みに行ったりしている所もある。また、同じ水を再利用して食事をしたり、食器を洗ったり洗濯したりしているところもあった。

調べてみると、私達が生活に使う事ができる水の量は地球上にある水のほんのわずかだということだと分かった。

これから、地球温暖化や世界の人口の増加により、水不足が深刻になると心配されている。

私と同世代の子どもが水質汚染のため、病気になったり、遠くへ水を汲みに行くために学校へ通えないということに胸が痛くなり、気軽に水を利用できる私とは違いに驚いた。

私達が、その様な子ども達の将来が少しでも良くなる様にするためには何をしたらよいのか考えたい。

私達、中学生が少しでも地球上の水不足で困っている人達のためにできることは何だろう。私は、水質汚染をすすめないよう努力をすることだと思う。例えば、油をいらない布などでふきとり、排水口に流さないこと、海や川のゴミをできるだけ拾いきれいにすることだと思う。

これから、私は地球環境や発展途上国の人々のこと、住んでいる熊本の地下水のことも関心を持ち続けたい。そして、未来の地球に住む人々ができるだけ同じ様に水を使うことができる世界をつくるために、私ができることは小さなことでもやっていきたい。

菊陽町にできた工場と地下水についてさらに調べたところ、工場を作った企業と熊本県が一緒に地下水を守る取り組みを行っていることが分かった。農家の方々に協力してもらい、地下水の源となる水田の面積を広げている。私はこの取り組みを応援し見守っていききたい。一人ひとりができる小さな事の積み重ねと、このような大きな取り組みが豊かな地下水を保つていくのに必要だと思う。

【水の作文大賞】

未来を支える地産地消

熊本県 八代市立第八中学校 三年 稲田 侑子

「ただいま。」

私には毎日の楽しみがある。それは、炊飯器の中を確認することだ。炊きたてのご飯はまるで宝石箱だ。見ているだけで幸せな気持ちになる。私の家のお米は、私の住む地域でとれたものだ。つまり、私は毎日、地産地消している。地産地消とは、地域でとれた農作物をその地域でできるだけ消費しよう。というものだ。そうすることで出荷・販売にかかるコストを抑えられたり、安心して新鮮な食材を購入できたりする。また、そうすることで、地域の恵みを守ることができる。「ウォーターオフセット」という言葉を聞いたことはあるだろうか。ウォーターオフセットとは「地下水を育む水で栽培された農作物や、それを食べて育った畜産物を購入・消費することで、地下水保全につながる取り組み」のことだ。熊本の水はほとんどが地下水だ。つまり、ウォーターオフセットの農産物を購入・消費することで、地域の豊み、熊本の地下水を守ることができる。

私が毎日幸せに浸りながら食べているお米は、ウォーターオフセットでつくられたものだ。以前、私はお米農家さんの家へあそびに行ったことがある。八月だったため、山に囲まれていたが、とても蒸し暑かった。そこで、近くの川で遊ぶことになった。川の中には、おたまじやくしやサワガニなど、たくさん生物が住んでいた。川の水は透き通っていて川底の石がキラキラとひかっていた。その隣には、鮮やかな緑の葉の間から、少したれた稲穂が顔をだしていた。私が川で遊んでいるとき、農家のおじちゃんはずっと田んぼを眺めていたから、私は不思議に思った。だからおじちゃんに眺めている理由をきいた。

「きれいな水がないときれいなお米はできないんだよ。」

と言われ、私は「そうなんだ。」とあまり深くは考えなかった。

しかし、突然私が大好きなお米を食べられなくなった。それは、「令和

二年七月豪雨」だ。いつもお米をつくってくださる農家さんの田んぼも被害をうけてしまったのだ。私が遊んでいた川は氾濫し、川底でさらきりとひかっていた石は、田んぼの中に入り、水は汚れてしまった。その時に初めて、私は農家のおじちゃんが言っていたことが分かった気がした。「きれいな水がないときれいなお米はできない。」今回の災害できれいな水ではなくなり、お米がふくれなくなってしまったのだ。

現在は復旧され、私の家ではまた宝石箱のようなご飯が炊けている。

この出来事をきっかけに、私の「水」への見方がかわった。毎日日本中、世界中で使われている水はあたりまえではないということだ。私が住んでいる熊本県は、「水の国」と呼ばれている。それは、豊富な地下水に恵まれているからだ。しかし、今、この地下水が減少しつつある。その理由は、都市化により水田の作付面積の減少を受け、地下水が減少していることだ。そこで、今注目されているのが、ウォーターオフセットだ。ウォーターオフセットの商品を購入・消費することで、地下水保全につながるのだ。水は災害をもたらしてしまうことがある。一方で、水は米などの幸をもたらしてくれることもある。だから、今を生きる私たちは水を守っていく義務がある。水を守るだけでなく言われると難しそうに感じるが、私たちは毎日必ず水を使っているはずだ。だから、手を洗うときに使わないのなら水をとめたり、川にゴミを捨てて川を汚さないようにしたり、私たちにできることはたくさんある。また、その中でできることがウォーターオフセットである。地域の食材を買う、地産地消することも地域の水を使うため、水を守ることにつながる。水を守るために自分にできることをして、今ある有限の水を未来へつなげて、支えていきたい。

【水の作文大賞】

じまんの水

熊本県

八代市立第八中学校

一年

田代

優羽

「日本一きれいな水、熊本県」そんな名前前で投稿された動画を見た。そして、熊本は水に恵まれたところなのだと、誇らしく感じた。そこで、水に興味を持ち、自分が住んでいる宮地町について考えてみた。すると、たくさんのきれいな川や水路があることに改めて気づかされた。

私が登校している学校では、小学校の五、六年生と中学校一年生の三年生で、自分の住んでいる地域について勉強する「みやじ学」というものがある。その、みやじ学で、私は伝統である和紙について、十二人くらいのメンバーで調べた。その歴史は、江戸時代の初期に福岡から伝わり、現在までずっと続いている伝統工芸だと知った。和紙をすくにはきれいな水がたくさん必要である。そこで、きれいな水が流れる川や水路をたどった。たどっていくと、だんだん自然豊かな山に近づいた。そして、その水路は普段何気なく通っている登下校の道まで続いていた。その景色から、私は地域の方々はずっと昔から伝統である和紙作りを守るために、水路に流れる水をよごさないように大切にしてくれたことに気づき、とてもありがたかった。

私が卒業した小学校では、卒業証書を自分で作るという行事がある。その卒業証書は、和紙だ。現在和紙をすく職人は一人だけしかないこと知り、とてもおどろいた。だから、そのような中で和紙をすく体験をさせてもらえたのは、とてもありがたいことで、忘れることの出来ない、良い思い出となった。和紙を作ってみて、水路からひいた水は冷たく、和紙をすいている間にとっても寒くなり、和紙作りが大変であることがよく分かった。

もし、水路を流れる水がにごっていたら伝統である和紙をすくことができなくなる。また、宮地に住むたくさんの生き物も生きていけなくなってしまう。しかし、宮地の水は何十年も前からすき通っていて、とてもきれいだ。それは、今まで宮地の川、水路を大切に守り続けてくれた

地域の方々のおかげだ。油や食器に残った調味料をふき取るのは手間だっただろう。それでも、宮地のきれいな川や水路、そして伝統である和紙を次の世代へとつなげるために頑張ってくれた地域の方には感謝の気持ちでいっぱいだ。他にも、宮地が自然豊かで雨がたくさん降る気候のおかげで、木々の栄養と共に水が川へ流れていき、きれいな水が成り立っている。

また、私の地元の宮地町の妙見神社では、毎年六月一日に「氷室祭」というお祭りが行われている。水に見立てたお菓子を食べて、一年間の健康や家内安全を祈るお祭りだ。このお祭りの起源は、三五〇年以上も前にさかのぼると言われている。江戸時代、八代城主として来た細川三斎という殿様が、妙見神社に参拝した時に、無病息災を祈って、東町の三室山にもった雪を神様に献上したのが始まりだと言い伝えられている。雪も水も水のひとつであるので、私の地元は水と昔から関わっていたことを知り、とてもうれしかった。

私は、自分の地域の水について学んで、これからも豊かできれいな水を守るために、私にできることはどんなことを考えてみた。例えば、油や調味料を水に流さず、ティッシュでふき取って、水を汚さないようにしたり、歯みがきやお風呂に入ったるときには、節水を心がけて、水を大切にすることができると。このようなことに、みんなが取り組んでいけば、きれいで豊かな水が保っていただけるだろう。そして、今度は私たちが次の世代へつなげていきたい。

【水の作文大賞】

限りある資源を守るために

熊本県 真和中学校 三年 松本 佳子

私の住む熊本県は一級河川である球磨川や熊本市内にある江津湖などの豊かな資源に恵まれています。そのため、蛇口をひねればすぐにおいしい水を飲むことができます。

私は小学生の時総合学習で浄化センターを訪問した。そこではいくつもの工程があり、莫大な費用と時間をかけてきれいな水が作られていることを知った。私たちは生活の中でもっと水に負担をかけないようにしなくてはならないと感じた。

母は、台所で洗い物をする時必ず洗う前にいろいろな紙や布を小さく切ったものを準備して、それで一度お皿や鍋をふいてから洗剤と水で洗う。家ではそれがあたり前なので私も手伝いをする時は同じ様に作業していた。でもある時その工程をなぜ行うのか疑問になったので母に確認を試みた。

「お母さん、洗い物をする前にどうして一度ふいてから洗っているの？」
「油やたべかすがそのまま下水として流れていくよりも、少しでもそれを流さない方が浄水に負担をかけないだろうと思うんだよね。」と、母は答えた。私はその言葉を聞いてとても納得をした。

それを聞いて私の生活も見習してみることにした。朝起きて顔を洗う。トイレに行って水を流し手を洗う。学校に行って給水器で水を飲む。理科の実験の後に道具を洗う。学校から帰って来てまた手を洗い、ごはんを食べて食器を洗い、お風呂に入る。

この生活の中で母の様に少しでも資源のために出来ることがあると考えました。私たちそれぞれがそれぞれの家庭の水の使い方や排水の汚染を少しでも気にかけることによって私達の地球の大切な資源である水を守ることに繋がっていくと思う。

日本、そして熊本は世界の中でも水に関する苦労は少ないと思う。水を川に汲みに行かなければならないから学校に行けない子供がいる国も

あると聞いたこともあります。水に関して苦労することのない生活をあたり前だと思っただけではありません。今、自分ができることを行動に移して行きたいと思う。

約四十年前の日本は、川の汚染の原因の大部分は工場排水だったと聞いたことがあります。それが今ではそのほとんどが生活排水になってしまった。ここ熊本に住む私たちは、熊本地震を経験し水のありがたさを改めて知った。加えて球磨川の洪水でその恐ろしさも知った。豊富に水がある分、その使い方を間違っしまえばその反動も大きいのだと私は思う。

これをきっかけに、多くの人が、そして私たち中学生が、水を大切にしようとする努力をすれば、日本の水はもっときれいになるし川も海もきれいになるだろう。

これからの未来はきつと私たちの手に託されている。水に感謝し、大切にできるような人間になる。その小さな行動、それはきつとこれから世界の平和にも繋がっていくにちがいない。

おいしい水、今日もありがとう。感謝。

【水の作文大賞】

当たり前にありがとう

熊本県 嘉島町立嘉島中学校 一年 橋本 葉奈

「うわ：汚い。」

思わずそう声に出したのは、二〇一六年に起こった熊本地震のときだった。私はそのとき、初めて水道水を汚いと思った。

熊本地震のとき私は四歳だった。それでもはっきりと覚えている。家の蛇口から茶色に濁った水が出てきたのだ。熊本地震が起こった直後はそもそも水が出なかった。食べ物は近くのコンビニで買ったおにぎりやペットボトルの水。しばらくして大量の水とインスタント食品が物資として届けられ、それで生活していた。そしてやっと出た家の水。断水期間は短かったかもしれない。けれど、水が出るようになるのを心待ちにしていた。それなのにひどく濁った水しか出てこない。私は心の中で少しがっかりしていた。「いつもの水はきれいなのに」と。その後、徐々にいつもの水も出るようになり、ごく普通の生活に戻っていった。その時だ。私ができるきれいな水が出ることにありがたみを感じたのは。しかし、世の中には、災害時だけでなく、日常的にきれいで安全な水を使えない人々もいる。

現在、世界人口の約三分の一にあたる、およそ二十二億人が安全に管理された水を使えていない。そのうち一億一五〇〇万人は、湖や河川、用水路などの未処理の地表水を使用している。菌に汚染された水を飲むなどで感染する伝染病で命の危険に直面している人もいる。その水が危険だとわかっていても飲まざるを得ない人々がいるのだ。水不足に悩まされている人も約三十六億人にもなる。この現状から水不足や設備不足などの深刻化が進んでいることがわかる。実際、水不足が原因で紛争が起こる場合もあるそうだ。今の状況が続けば、二〇五〇年には約九十七億人になるとされている世界人口のうち、約半数が水不足にさらされると予測されている。地球上の水資源には限りがあり、飲み水として使用できる水は地球全体の水の〇、〇一%にも満たないと言われている。使

用量が増えれば増えるほど水不足は深刻になっていくのだ。また、排出される工業排水やや生活排水が河川や海、地下水の汚染にもつながっている。さらに、地球温暖化による気候変動や水源破壊も水不足の大きな要因になっている。

では、私たちができることはなんだろう。国土交通省の統計によると、一日一人あたり約三〇〇リットル近くの水が使われているそうだ。日本では、水に困るということはあまり多くはない。だからといって好き勝手に使っていいわけではないだろう。一人一人が水不足の原因を理解し、できることを行動に移すことが大切だ。例えば、私達は生活のあらゆるところで水を使用している。その際、使用を最低限に抑え節水を心がける、洗剤や油などの生活排水を減らす。そして、温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を抑えるなど、それぞれの家庭でできることはある。日常の中で少しずつ意識することが水不足対策につながっていくのだ。

私は熊本地震のとき、水が出ないというのは大変なことだと実感した。濁っている水を見たときも汚いと思った。「こんな水使いたくない」と。しかし、水が汚なくてもその水を使うしかない、水不足に苦勞している、そんな人たちがいることを知った。今までも、節水には気をつけているつもりだった。けれど、これからは、水を出しっぱなしにせず節水をする。油ものは水に流さず拭きとることに力を入れていこうと思った。水は津波のように人の命を奪う怖いものもあるが、私たちは水がないと生きられない。水は無くってはならないものなのだ。これらのことを頭に入れながら、水に感謝して過ごしていこう。

【熊本県賞】

熊本の誇り

私は熊本の、地下水が湧いている綺麗な透き通った川が大好きだ。私はこの熊本の自慢である地下水を、守っていききたい。

去年の夏、とても暑い日に私は母と、いとこと、いとこの親で、いとこの家の近くの川に遊びに行った。その川は地下水が湧き出していて、とても透き通っていてとても綺麗だった。水はとても冷たかったが、どのような感じか気になり、私はゴーグルをつけ、生まれて初めて川に潜った。今でもはつきりと覚えている。遠く離れたところまではつきり見えるくらい透き通っており、少し離れたところに魚が泳いでいた。ずっと水に浸かっていたらとても寒かったけれど、寒いということより、もっと水に潜ってあの景色を見ていたいという気持ちが勝ってしまうくらい、とても綺麗だった。これが地下水を守っていききたいと思った一つの出来事だ。あと一つ守っていききたいと思いたくなる体験がある。二つ目は、昔、四〇〇年以上、八代で受け継がれてきた宮地手漉き和紙について学習した時のことだ。私達は実際に、作る時に使っている川や道具、和紙の原料となるコウゾという植物などを見に行きました。その説明をしてくださっていた人は、

「和紙を作るのには、綺麗な水が必要不可欠です。」

と言っていた。和紙は私達のととても大切な、四〇〇年以上受け継がれてきた文化だ。そしてこれからも受け継いでいくためには、和紙にとって必要不可欠である綺麗な水を、私達で、ずっと守っていくことではないかと私は考える。

私達が毎日、当たり前のように使っている地下水は山などから私達のところに到達するまで、どれくらいの間、年月がかかるのかというのを最近、学校で見た動画で知った。なんと阿蘇山から私達が住んでいるところまでで約二〇年、白川中流域から私達が住んでいるところまで、早くて五年、長くて十年くらいかかるそうだ。私はそれを知った時、自

熊本県 八代市立第八中学校 二年 上田 真子

分の予想よりも長くて、とても、びっくりした。そしてその動画で、なぜ熊本には地下水が豊富なのかも学んだ。熊本県の降水量は年間約二〇〇〇ミリで、特に阿蘇山付近では、年間で三二〇〇ミリに達していて、全国の平均を上回っているそうだ。降水量のほかにも、熊本地域は、古代阿蘇山の噴火による堆積物により非常に水を透しやすい特徴を持っている、蓄えやすい地層になっている、などのおかげで、熊本には地下水が豊富だということを知ることができた。けれど最近、熊本の地下水が減少している。ということを知りました。原因は、近年の都市化の進展、転作による水田の作付面積の減少などだそうだ。熊本の大切な地下水を守る活動として、野菜やお米などを収穫した後や、作物を植える前の一定期間、水田に水を張って地下へ染み込ませることで、地下水を守る活動を行っているそうだ。ほかに「ウォーターオフセット」という、地下水を育む田畑で栽培された農作物や、それを食べて育った畜産物を購入、消費することで、地下水保全につながるという取り組みも行っているそうだ。

私達にとって熊本の地下水は、とても大切なものであり、必要不可欠なものである。綺麗な川や、手漉き和紙なども、ずっと大切にしていきたい。熊本の地下水は私達の自慢であり、誇りである。

【熊本県賞】

「節水」とは何か

熊本県 嘉島町立嘉島中学校 三年 山口 由華

「どうしよう…。」

私がこう思ったのは中学校一年生のときの夏休みのことだ。部活が終わり家に入ろうとしたときに気がついた。それは家の中に鍵を忘れてしまったことだ。この日はものすごく暑く、部活が終わった後だったのでも喉がかわいていた。でも、水筒の中身は部活中に全て飲んでしまったため空っぽだった。

「どうしよう…。このまま何も飲まずに、熱中症になったら。」

と心の中でつぶやいた。

その時に私は庭に水道があることを見つけた。

「よし。やっと飲める。」

と喜んだ。蛇口から出てきた水を飲むと生き返るくらいに元気になった。この時に飲んだ水は今までで飲んだ中で一番おいしかったジュースよりもはるかにおいしかった。

このことをこの日の夜にお母さんに話した。すると、

「嘉島は蛇口をひねると飲めるぐらい綺麗な水が出てくるけど、世界を見てみるとそうはいかないんだよ。」

とお母さんは言った。このことをきっかけに世界の水問題について目を向けてみた。

今、世界の水問題はどうなっているだろう。世界中には、安全に管理された飲み水を使用できずにいる人がおよそ二十二億人もいるそうだ。安全に管理されていない人は、寄生虫や病原体などを含んでいるため、飲み水として利用するのはとても危険だ。しかし、世界にはそのような危険な水を飲用水として利用したり、料理、手洗いなどに利用したりせざるを得ない人々もいる。また、世界には深刻な水不足に直面している地域もあるそうだ。このように世界では沢山の水問題がある。

私は水問題について自分ができることはないか考えた。それは「もっ

たいない」という言葉を常に頭に入れておくことだ。ほとんどの人が水を節約するときには、

「節水」

という節約することばかり考えている。

「節水って言うけどめんどくさいのはイヤだ。」

という人が多く、あまり節水ができていないように感じる。しかし、「節約」を「もつたいない」という言葉に変えることで、自分が「損」をした気分になって、水を無駄使いしにくくなるのではないかと思う。具体的な例として、

「髪をシャンプーで洗うときにシャワーの水を流したままにすると、一分間で十二リットルの水を損してしまうのもつたいない」や

「お湯の沸かしすぎでもつたいない」

など身の回りでは様々な場面で「もつたいない」と感じる。このことを感じることによって、自分たちのくらしには欠かせない水を大切にできるのではないかと思う。

これからは、水が豊富な嘉島町で生活していく自分だからこそ、「もつたいない」を合言葉にして節水に取り組んでいこうと思う。また、「水」というものは自分のように助けてくれることもあれば、安全に管理されていない水を飲んで命を奪われることもある。この二つの意味があるということを感じて生活していきたい。

【熊本県賞】

水の機嫌は私たちしだい

熊本県

氷川町及び八代市中学校組合氷川中学校

一年 小田 倖輝

「さらさら、ちよろちよろ、ぼちゃん、ちゃぶん」水の機嫌は良いようだ。透き通る水を見ていると、自分の機嫌も自然と良い。

私たちが豊かに生活を送ることができるのは、水のおかげである。また、外を歩いていると川や田んぼでも水が張られている。水はにごっていない。きれいな水で生き物の観察ができる。目に直ぐ入ってくる水は、それだけ私たちにとって身近な存在なのである。切っては切れない関係だと感じている。しかし、水は常に「機嫌ではいてくれない」。

人間が水を怒らせるきっかけを作ってしまうことで、機嫌をそこないストレスを与えてしまっている。そして、水は怒りを爆発させたときに、水害などの災害を引き起こしてきている。近年の日本は、水害だらけとなった。私の住む八代でも水害が起こってしまった。きっと水は、災害などで悲しみを表現しているのだと私は思った。

今まで小さな川や大きくて広い川を見てきた中で、川にゴミが落ちていない川に出会ったことがない。海も同様である。海に漂流していた物には、プラスチックやガラス、よく分からないものもあった。それを見た時に、

「何これ？」

と、その度に家族に尋ねてしまう。よく分からない物の中には、外国製の物もあった。

今の日本の水は大丈夫だろうか。昔に比べると水がにごって汚れているらしい。そして、湧き水が豊富な熊本の水でさえも湧き水の量がとて減っているか、枯かっているらしい。さらに、私が心配をしていることは、国が発展することである。豊かな暮らしと引き替えに何かしらの代償が出てくるのではないかと心配をしている。どちらかと言うと恐れ

ている。もしかすると数十年後には、水がどうにかなってしまい、水が怒りを爆発させて人間では抑えきれない水害がもつと起こるのかもしれない。

人や動物に感情があるように、実は水も感情をもっているのかもしれない。人は、嫌なことがあると涙を流すように、水の涙は洪水などで表現しているような気がする。

「人に嫌なことをしてはいけません。」と言うように、水にも「水が嫌だ」と思うことをやってはいけません。」と同じように言うべきなのだと思う。自分かつてな行動は自然を破壊し、水を汚していく。一人の軽い気持ちで世界中の人たちを困らせてしまう。そのような人に私はなりたくない。

「水のために、他の人のために」と考えて生活をしてみることで、自然と水を大切にできるはずである。

ご機嫌な水を毎日私は見ていたい。

【熊本県賞】

水とくせ毛との毎日

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 元山 実乃莉

朝、母が私を起こす声を聞いてベッドから体を起こす。自分の頭に手をやり、いやな予感と向き合う。ふわふわと波状で不揃いな私の髪は小さい頃から協調性という言葉を知らないようだ。この約十三年間いつもくせ毛と過ごしてきた私には、どうしても相容れない存在がある。それは水、さらに言えば熱を持った水蒸気だ。くせ毛の人なら分かると思うが、これらはうねる髪にとつて宿敵となる。梅雨の季節、風呂上がり、プールの授業などいやというほど水と対面してきたが、どの瞬間も私の気持ちを沈めさせる。さながら何も見えない泥の中にいるようだ。続く毎日の中で水と私の生活が切り離せない事を痛いほど感じる。私の中で水というかべると、一番最初にくせ毛という単語が結びつくほどだ。

プールの授業などの学校生活は水を避ける事が出来ない方がほとんどだ。では、天気はどうかなのか。天気こそ自分ではコントロール出来ないから厄介だ。どうにかして熱くてジメジメした日が無くならないか考えない日はない。

学校で水について考える授業が行われた。

私は地球温暖化をインターネットで調べ、環境省のサイトから次のような事実を知った。

「地球温暖化が進めば、平均気温が高くなるだけでなく、海面が上昇し、さらに熱帯低気圧の強度の増加や集中豪雨の増加など、異常気象が起る確率が高まります。このため、特沿岸域では、高潮や浸水などによる被害の増加が懸念されています。」

雨や曇りの日は無くなるどころか増えるようだ。私が地球温暖化について考えるようになったのはこれがきっかけとなった。遠くの島が沈むことよりも、生き物が住む場所無くなることよりも、天気が悪い日が増えることの方が私に大きな衝撃を与えた。それは自分と身近な事と地球温暖化が深く関わっていると知れたからだと思う。水とくせ毛について悩

みながら地球温暖化について考えることが出来た。

その後私は地球温暖化を食い止めるために何をすればいいのかを調べた。大切なのは、温室効果ガスを出す量を減らす事で、節電をしたり車を使わないようにすると良いそうだ。すぐに挑戦できる節電には、照明のスイッチをこまめに切ったり、お風呂や炊飯器の保温機能をできるだけ使わないようにしたりするなどがある。私はこれから朝にヘアアイロンを長時間使うことのないよう、毎晩早めにドライヤーをすませるようにしたいと思う。

私は今まで、水についてや地球温暖化について深く考えても自分ごとにして危機感を持つ経験がなかった。しかし、思いがけずくせ毛との関係を知って節電を初めるところまで意識を高めることが出来た。色々な問題について意識を高めていく事は思ったよりも簡単なことだったのかもしれない。

水について考えていきながら地球温暖化について危機感を持てたのは自分の中で大きい経験となった。私の身近にある物や事から世の中の問題に目を向けられるようになるためにも、日々の勉強や知識を深める活動に力を入れるようにしたいと思う。このことから、様々な問題と立ち向かうためにも、知識を身近な物事と結びつけていく視点を持つ大事さを学んだ。くせ毛と戦いながら、水と共に生きながらその視点を心にとめて毎日を過ごしていけたらいいと思う。

【熊本県賞】

海の豊かさを守ろう

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 池田 遥

これは持続可能な開発目標、SDGsの十四番目の目標だ。SDGsという言葉聞いたことのある人は多いと思う。しかし、その内容はあまり知られていない。世界で海洋汚染が叫ばれている今、私たちの熊本の海について考えたい。

夏休み、私は天草の祖父母の家に帰省した際、家族でよく海に行っていた。私は特別海を重要視しているというわけではないが、海は私たち熊本人にとってなくてはならないものだと思ってる。しかし、その光景がこれからも続くといい切れるのだろうか。熊本の海の現状、そしてこれから起こりうる未来について調べることにした。

熊本は有明海、八代海、天草灘と三つの海に面している。雄大な自然風景や漁業は勿論、海水によってミネラルを多く含む青果物など海のものたらす恩恵は計り知れない。夏の遊び場であったり、海を見ると心が安らぐという人も多いだろう。地下水や湖、降水量に恵まれ「水の都」と称されるほど水に重きを置く熊本にとってこの海がどれほど必要かは言うまでもない。そんな中、今熊本の海は漂着ごみや放置されたプラスチックが問題になっている。原因としてはやはりポイ捨て、そして災害時、特に大雨の際の流出である。漁業や船舶の運航に支障をきたす上に、熊本の海の長所である多様な生態系においては甚大な被害を被っている。この状態が続けば熊本の海が美しさを失い、今とはかけ離れたものになることは想像に難くない。

この状況を改善するため、熊本県では漂着ごみの実態把握、回収強化、循環型社会の推進など打開策を数多く行っている。しかし、いまだ海洋ゴミは熊本の海を漂っている。現状を打破し海がきれいであり続けるには、県や企業、市町村、そして一人ひとりの協力が必要だ。清掃活動やボランティアだけでなく、「ゴミを出さない」根本的な解決に目を向けるべきだと私は思う。海洋ゴミ、イコールペットボトルなどのプラスチック

クと思ひ込みやすいが、不織布マスクや使い捨てコンタクトレンズなどその他のゴミも数多く見受けられる。意識調査によると、県民の海洋ゴミに対する意識は高い。だからこそ正しい現状を伝えることで熊本の海はより改善へ向かっていくのだと思う。今必要なのは増え続けるゴミを対処する対症療法ではなく、そもそもゴミを出さない根本治療だと私は考えている。実際、エコバッグの利用やプラスチックストローの利用を控えるなどできることは多い。「海の豊かさを守ろう」、熊本の海を守り、次の世代へ受け継いでいくのは他でもない私たちなのだ。

あなたは釣り糸が首に食い込んでいるウミガメの写真を見たことがあるだろうか。毎年百万羽の海鳥と十万匹の海洋生物が人の出したゴミにより命を落としている。

あなたは最後に海を見たとき、何を思ったか覚えていだろうか。それはこれからの約束されているものだろうか。

まだ手遅れではない。これはもつと簡単な問題であるべきなのだ。この熊本の海をいつまでも眺め続けられるように、これからを当たり前にするために、今できることを私はしていきたい。

これを読んだあなたに、熊本の海を少し考えてほしい。

【入選】

熊本の地下水

空が暗くなったところ、私は家族と江津湖に散歩に行きました。何げなく川に目をやるといくつもの光が目にとびこみました。それは蛍の光でした。こんな身近にきれいな水があるんだと改めて実感しました。

そんな熊本に台湾の半導体製造大手であるTSMCがきれいな水を求めて、新しい工場を建てる計画が進んでいます。この工場では半導体という電子部品を作るためにたくさんの水が必要になります。しかし、水をたくさん使うことで地元の水資源に影響が出る可能性があると心配されています。

熊本県は水が豊富な地域で、地下水や川の水などがたくさんあります。でも、TSMCの工場ができるともっとたくさんの水が必要になるため、熊本の水に影響が出るかもしれません。地元の人や環境を守る団体は、水をきちんと管理してほしいと要望しています。

一方で、TSMCの工場ができることで、地域の経済が活性化し、新しい仕事が生まれる可能性があると考えられています。半導体産業は高度な技術が必要とする産業で、地元の人たちに新しい仕事の機会を与えることで地域の発展につながるかもしれません。

熊本の地下水は近年、減少してきている。二〇〇八年の地下水採取量は一億八千万トンと、十七年前の七十五パーセントに減少していたのにもかかわらず、地下水位が低下していたのです。その原因は、地表の水が地下にしみこむ量が減ったことでした。田んぼは地下水の供給源としてとても重要なのだが、近年田んぼも減り続けているのです。熊本地域の水稲作付け面積は三十年前の三分の二程度田んぼは畑に、あるいは宅地や工場になった。背景には米の供給過剰による、全国的な減反政策があります。このようなことによって熊本の地下水は、今までよりもっとと大事にしていかなければならないのです。

熊本県とTSMCは、水資源の管理や、環境保護について協力しながら、

熊本県 真和中学校 三年 三隅 満花

ら、工場建設を進めています。地元の人たちの声や環境への配慮を十分に考慮しながら、持続可能な半導体製造を実現するための取り組みが求められています。

このように、TSMCの熊本工場建設には地域経済の活性化と水資源管理の両面から注目が集まっています。地元の人たちと企業が協力し合いながら、持続可能な発展を目指す取り組みが進められることが期待されています。

熊本市は市民の水道水の一〇〇パーセントを地下水でまかなっていて、清らかで豊富な地下水は、社会活動を営むうえで様々な用途に利用されています。人口約七十四万人を擁する都市で、水道水のすべてを地下水でまかなっているところは、日本全国でも他に例がありません。まさに、世界に誇る地下水都市と言えます。

そんな熊本の水を大切にしながら、TSMCの持続可能な半導体製造による、熊本の活性化にも十分に注目していき、私たちも、熊本の地下水を大切にするための取り組みもしていけたらと思います。

【入選】

自分に一番近い存在

熊本県 熊本県立玉名高校附属中学校 二年 早野 舞桜

皆さんは「自分に一番近い存在」を何と考えるだろうか。家族、自然、友達、金、自分が一番大切に行っているものなど考える人もいるだろう。しかし、私はこの題名の通り、「水」が自分に一番近い存在、また自分の体の中で一番大切だと思う。

私は最初、体の中で一番大切なものは心臓や脳だと思っていた。心臓が止まれば死に、防災訓練では最も、頭を守っていたからだ。しかし、理科の授業で体の半分以上が「水分」でできていることを知った。これは、インターネットで調べたことだが、体内の水分量が不足してくると、さまざまな健康障害を引き起こす可能性があるそうだった。5%失うと、脱水症状や熱中症などの症状が表れ、10%失うと、筋肉のけいれんや循環不全などの症状が出るそうだった。そして、20%失うと、死に至ることもあるそうだった。これだけでも、「水」が一番近い存在だということができるとはならないだろうか。

また、さっき

「体の中で一番大切なものは心臓や脳だと思っていた。」

と言ったが、心臓は何を体に送り出しているだろう。答えは皆さんが知っている通り、「血液」だ。心臓は血液をポンプのように体全体に送り出し、二酸化炭素などを多くふくんでいる血液を回収して、肺に送る役割を担っている。つまり、「血液」が体の中になれば、心臓も必要ないのではないか。脳も同様に「血液」がなければ、必要な栄養素や酸素が行き届かず、機能しない。そのため、体の中にある臓器は、「血液」があるという前提の上でなり立っていると思う。これもインターネットで調べたことだが、主に脳、腸、腎臓、筋肉、肝臓などの臓器・組織の水分は約80%だそうだった。だから、もし「血液」がなくても体に水分が存在しないかぎり、臓器が役割りを果たせないどころか、人間は生きていけない。これは、人間だけではなく、動物や植物にも言えることではないだろうか。

また、「血液」の成分の半分以上は「血漿（けっしょう）」と呼ばれる液体からできているそうだった。そして、この液体の91%が水分でできているので、大まかに言えば、「血液の半分は水分でできている」ということになる。また、水分が減少すると血液の量も減少するそうだった。そして、血液の中の水分が少なくなると、血管を通りにくくなるそうだった。つまり、この血液の状態が、不健康な状態ということになる。

この作文では、主に、体に必要不可欠な「血液」を例にして書いたが、周りを見渡せば、見渡すほど「水」がなくてはならない存在だと分かる。

例えば、料理、洗濯、風呂、トイレ、手洗いやうがい、水力発電などの電気、雨、その他にも動物や植物との密接な関わり、それは歴史にも言えることだ。人々が初めて築いた文明は全て大河の近くで発展している。そのため昔から、生命と水は深くつながっている。

また、もう一つ例を挙げるとすれば、震災で一番困ったことは「水の確保」であり、とりわけトイレの水が確保できずに困ったそうだった。水の例を挙げればきりが無い。

このようなことから、私は「水」が「自分に一番近い存在」であり、体の中で一番大切なものと言えらると思う。「水」や「血液」などの体について調べながら、「水」の必要性や偉大さ、影響力にとってもおどろかされた。これからは「水」があることを当たり前だと思わず、大切にし、感謝することを忘れずに生活していきたい。そして、「水」の大切さや必要性などを沢山の人の人に伝えていきたいと思った。

【入選】

水と共に生きる

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 古島 美空

あなたは「水」をどのようなものと捉えているのだろうか。水の尊さは計り知れないものだ。水が世界でなくなったら生きていくことはできない。

「私達にできることは何か」

水を使うのが当たり前な私達にしか考えることができない課題だとあなたは分かるだろうか。

では、私の母の思い出話をしよう。私の母は二十代の頃、各国を巡っていたらしい。文化や風土、風景、世界各国違っていて楽しかったらしい。そんな母が一番話していたのは「水」のことだ。旅先では水の確認をして、まず安全であるか、軟水か硬水か知ってから使ったらしい。海外では、水は「買うもの」が一般常識で、日本のような蛇口をひねれば水が出る国は十ヶ国程しかない。私は、日本は水に恵まれていると感じた。だが、世界の国の数は百九十七ヶ国。安全な水を安定して供給できる国は、蛇口をひねれば水が出る国の十ヶ国程。なぜほとんどの国で安全な水が飲めないのか。そこには悲しい現実がある。

水は、人間や文明、生活を発展させてきた。つまり、「水」は生きる上で欠かせないものである。世界ではその「水」をめぐる紛争が起きている。世界における水不足問題を、「ウォーターストレス」という。日本のウォーターストレスはやや低く、水不足にはあまり困っていない。だが、乾燥帯の発展途上国では、水にかけることのできる資金が少なく、気候上、雨があまり降らない。水資源確保がとてめ敷いのが現状である。また、武力紛争が集中するこれらの地域では水不足が問題となり対立、摩擦の原因となっている。紛争により、罪のない人の命も奪われる。例えば子供。水を確保するための水くみかられる子供は自由な時間・人生を失っている。学校にも通えず、勉強や文字が分からなくなる。すると、どうなるだろう。今はグローバルな社会。勉強ができる、コミュ

ニケーションがとれる人材が大切な世の中で、勉強ができないと世界からおいでいかれることになる。仕事がなく、お金もないことが国全体になり、発展途上国になってしまう。お金がないということは、浄水施設や井戸などを作ることができないということだ。そして、不衛生な水により、病気や感染症になり、最悪死に至る。こうやって人の命が奪われていく。世界では、二三十年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標「SDGs」の達成に向け様々な取り組みをしている。だが、一ヶ国だけでなく他国と協力したり、国連との協働をして達成を目指している。これが今の水の現状だ。

「水」について考えていく中で、ふと母の話で心に残っている言葉を思い出した。それは、

「世界に行くべきだよ。」

私は初め理解できなかった。だが、今理解した。世界は広い、自分の知らない未知が待っている。自分一人でもならない問題に直面するかもしれない。だけど自分の精一杯の力を発揮することが大切だと。母は私にそう伝えたかったのだろう。

あなたは、最初の問いの意味がわかっただろうか。私達は快適に暮らせている方だ。世界に視野をむければ今、生きるために、生活するためにはどうすればいいかと毎日、身近な死と向き合い過している人々がいる。いかに自分たちが幸せか。私達は、相手のことを考える余裕が残っている。世界が平和になるために私達一人一人が水と向き合い、自分には何ができるか考える義務があると私は思う。一円でもいい、募金をすることで救われる命があると思う、水について考えるべきだ。

あなたの水はどこから来たのか。当たり前でない水。その一滴の水の重さは命の重さほど尊いものだ。あなたは理解できるだろうか。

【入選】

二度の断水を経験して

熊本県

氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校

二年 西 聡真

僕は今まで二度の断水を経験した。一度目は二〇二〇年七月、豪雨の影響による断水、二度目は、氷川ダム導水管のろう水による断水だ。前日に防災無線から断水するとの放送が流れたが、その時はまだ水道から水が普通に出ていたので何とも思わず、いつも通り水を使っていた。父や母は、お風呂の水をためたり、空のペットボトルに水をためたりと何だかバタバタしていた。母は、何かあった時のための飲料水はいつも買っているが、足りるかなと不安になりすぐ水を買に出かけた。帰ってきた母は、スーパの水があまりなかったと困った様子だった。

次の日の朝には、水道から水が出なくなり小学生だった僕には、「水道から水が出ない」と衝撃的だった。お風呂にためていた水やペットボトルの水も、トイレを流すのに使ったり、顔を洗ったり、歯を磨いたりを家族五人分の水は、すぐになくなりそうだった。

その日、役場に給水車が来ていたので僕も一緒に水をもらいに行った。役場には、自衛隊の給水車がいて沢山の人が並んでいた。それを見て、少しビックリしたのと同時に「みんながもらったら給水車の水は、すぐになくなってしまいうんじゃないか」と不安にもなった。もらった水も炊事やトイレなどで、すぐになくなり、一番大変だったのはお風呂だった。夏の暑い日にお風呂に入れないのは絶対にいやだった。だからとなり町の温泉に行く事になり、どうにかその日はお風呂に入れた。ごはんを食べるときは、紙皿や紙コップ、割りばしを使い洗わなくていいようにした。一番水を使ったのはトイレの水だったと思う。トイレに一度に使う量がペットボトル一本だと流せないと分かった。トイレの仕組みをそこで初めて知り、流すのにこんなに水を使うなんて、もったいないと思った。

普段は、断水など意識して過ごす事は全くないし、水は水道から出て当たり前だと思っていた。

断水を経験した今は、水を大切に使おうと意識している。断水が解消され、水道から普通に水が出てきてありがたかった。

インターネットで調べてみると、日本人一人が一日に使う水の量は約二二〇リットルと言われている。二二〇リットルとは二リットルのペットボトル一〇本分ということだ。それだけたくさんのお水を使っているということに驚いた。だからこれからは節水を心がけたいと思う。

そしてここ最近では地震も多く、突然の断水や停電がいつ起こるか分からない。そうなれば給水できる場所も限られると思う。どれだけ続くか分からない断水や停電に備えが必要になると思うし、断水を経験したからこそ今まで以上に災害時の備えが必要だと思った。

そして普段当たり前に使っている水を、もっと大切に使おうと思う。

【入選】

世界の水を救うために

皆さんは、水の大切さと水の価値を知っていますか？水は未来には、欠かせないとても大切なものです。自分の町には、水をためるダムがあります。小学校の頃自分は、浄水場に行ったことがあります。そこでは、たくさんのお水がためてありました。これが家庭などにきて流れているのだと知りました。昔、水は汚染水として流され海の生き物などに大きな影響を与えていた時がありました。実際に私の住んでいる県では、水俣病がおこって、まだ後遺症で苦しんでいる人がいます。この原因はメチル水銀というのです。元は、工場からの汚染物質が排出され出たものだったのです。それを魚が食べ、それをとった人間が食べてしまい、メチル水銀を体内に取り込んでしまったのです。水とは人間が生きるためにもあり、生き物が生きるために必要なものです。それを人間が汚してしまい海の生き物がとても苦しみます。皆さんは世界がどれだけごみを海に排出しているか分かりますか？年間約800万tとされています。水を汚すと人間も海の生物たちも苦しみます。このまま水が汚され続ける世界は、どうなるでしょう？まず2050年には魚よりもごみの量が多くなります。これは、日本が今大きな課題としているものです。海の生物海でなければ生きられません。その中に汚染水などの人間が捨てたものが入っていると海の生物は、傷つけられやがて死んでしまいます。このようなことを起こさないためにすること1つ目は「外で出たごみは家に持ち帰る、または決められた場所で処分する」2つ目は「毎日の暮らしのなかでできるだけごみを出さないようにする」です。皆さんは、SDGsという言葉を知っていますか？SDGsとは人類が2030年になるまでに達成できなければいけない目標です。これには、6つ目に「安全な水とトイレを世界中に」14つ目に「海の豊かさを守ろう」というのがあります。この二つは、どちらも水に関係するものです。それが二つもあるということは、それだけ大事なものでしょうこの二

熊本県 天草市立新和中学校 二年 井上 桜雅

つに込められた思いとは、何でしょうか？調べてみたところまず一つ目の「安全なトイレと水を世界中に」の目的は、世界には、今約22億人が安全に管理された水を得られない人がいます。また約42億人が安全に管理されたトイレを利用できていません。そのためこの「安全な水とトイレを世界中に」とは、

水と衛星の課題解決に掲げられたものということです。これに関して、私たちにできることは、「食べ物に変身した水を大切に」しましょう。水は、誰もが使うものなので、そこをしっかりと改めてから使うことを意識しようと思いました。二つ目の「海の豊かさを守ろう」の目的は、持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保安し、持続可能形で、利用することです。これは、目標14にされており両業者の雇用を守りサンゴ礁壊滅の危機を食い止めるため、海洋資源の持続可能な利用でまだ貧しい島国の利益を増大させ、プラスチックの廃棄や漁業の乱獲による海洋資源や生物の減少を食い止めることを目指しています。この行動に対して、自分は、私たちの生活にも大きな影響が起るためこういった取り組みを日頃でもしっかりとできるように普段の生活の中で、出ているごみの量を減らすといったこともできると思います。僕の地域では、漁が盛んです。水が汚くなるとこの2030年にまで達成しなければいけないので、僕の地域がそのようなことになってしまおうとおいしい魚などが食べられなくなってしまうととても残念です。僕は今の生活ができてしっかりと水をとれることを感謝しています。皆さんも水がしっかりとれることを感謝して、あまりできていない人は、しっかりと改善するようにならしましょう。

【入選】

必要な水

熊本県 真和中学校 一年 小堀 草太朗

ぼくは、この作文をやる事が決まるまで、水に対して実は一切の興味もありませんでした。熊本地震で被災した時も海の近くに家が無く、友人やいとこ達。祖父母の家も海や川の近くに無かったので、水のこわさについても、あまり、何も感じませんでした。

しかし、最近父と一緒に、NHKスペシャルを見た時に、(昔の物でしたが)東日本大震災での津波に流されていく家族を見て、始めて水のおそろしさを知り、また、その津波により、人類が作り出した原子力発電所がこわれてしまい、その周りにひなんしていた人達や、土地が核で死んでしまったり、おせんされたりと二次被害を受けてしまうというおそろしさを知りました。

また、この一週間水について調べていると、「仮想水」という単語が出て来て、その仮想水(バーチャルウォーター)について調べてみると、仮想水とは食料を輸入している国において、もしもその輸入したい食料を生産するとすれば、どれぐらいの水が必要になるかを推定した物で、仮想水貿易でも使われる基準のような物だそうです。また、この貿易でよく輸入輸出を行う国としては、アメリカやオーストラリア、カナダなどがほとんどをしめており、その他では、タイや、中華人民共和国などがあるそうです。この仮想水を調べたことにより、ぼくは今まで考えたことの無かった「物ができあがるまでの水」について考えるようになりました。

そんなことがあってから、ぼくは、一つ一つの物に対して、できるまでに必要な水分を考えるようになりました。例えば一つのハンバーガーを作るのにも、九百九十九リットルもの水が必要で、ペットボトル約二千本分ほどとなります。全然水が必要そうでないハンバーガーでも、約千リットルも必要だなんて考えたこともなく、はじめて知った時はとてもおどろきました。

では逆にとっても水が必要そうな白米では、四百四十四リットルと、意外に必要な水分が少なくすむと分かります。ですが、それでも四百四十四リットルはすさまじいです。

また、人が一生にのむ水の量は約一千万リットルで、その千分の一をしめているハンバーガーは、本当にたくさんの水が必要だと分かります。

このように一つ一つの物に必要な水を考えるとすさまじい量になることが分かります。このような視点で物事を見ていくと、水のめぐみについてたくさんの考え方ができます。ただ水を飲んだり野菜、くだ物を作るのもそうですが、このように物を加工したり、組み合わせることで必要になってくる水が大部分をしめていると思うと、水が本当に大切な物に思えてきます。仮想水貿易でやっているように、人との貿易では、金として考えることのほかに、水の視点で考えてみるのも大切なのではないでしょうか。

ちなみに、水一千万リットルは、値段にすると約二百万円以下となるので、その考え方をすると、とてもおどろくような視点で物や値段を見ることができます。

【入選】

共に過ごす「水」

熊本県 天草市立新和中学校 二年 川端 星奈

皆さんは「水」と聞いてどのようなことを思い浮かべますか。私は「水」と聞いて一番に思い浮かんだのは、ある言葉でした。その言葉が「節水」です。

節水とは、無駄な使用を減らすという意味です。最近私がニュースを見ている限りでは、節水という言葉は聞かなくなりました。しかし私は次世代に向けて節水は一人一人が心掛けないといけないと思います。そこで日本の水不足の原因と世界の水不足の原因を調べてみました。

私の中では、日本はあまり水不足というイメージが浮かびません。しかし、日本も将来的に水不足になる可能性があると言われています。日本の水不足の原因で特に私たちの生活で身近にあるものが、「日本人が使う生活用水は世界平均の倍以上となっている」ということです。どういうことかという、一般的に人が暮らすのに必要な水の量は、最低でも一日100ℓです。しかし日本人は一人当たり200ℓの水を使っているということ。このことから、日本人は他の国の人たちと比べて無駄な水の使用量が多いと考えられます。では世界の水不足の原因はどのようなか。

世界の水不足の原因の一つは、人口が増え続けているということです。現在の世界の人口は80億人以上です。ですが、2050年には97億人に増加すると予測されています。人口が増加すると、もちろん水の使用量も増えます。しかし水の量は限りがあるため、水不足はほとんど問題になってきます。

私は、この二つでは日本の水不足の原因を少しでも減らすことが大切だと思います。日本人は無駄な水の使用量が多いということから、「節水」を心掛けている人がとても少ないということです。もちろん心掛けてい

る人もいると思います。しかし、心掛けている人はいても、中々解決できていないということは、日本全体で「節水」を心掛けないとこの原因は無くすることができないということです。

私の家は少しでも水の使用量を少なくするために、お茶碗を洗うときに一度すべての茶碗を洗って、最後に洗い流すという工夫をしています。しかしこの工夫はあっているのかわかりません。でも、一人一人がこのように日常生活の中でも工夫してみることが大切だと思います。

現在世界には6億6300万人の人々が安心して飲める水がありません。安心な水ではないということは、その水の中に細菌が入っていたりします。今安心して飲めている私たちは、世界みんなが安心・安全で飲めるように少しでもお金を寄付したり、リサイクルができるものがあったら他のものと分別する、などといった生活の中で何か少しでも変えてみることも大切なのだと私は思います。

水は私たちが生きていくためにとても大切なものです。その大切な水を世界みんなが使っていくには、使っていく人一人一人が「節水」やリサイクルなど、日常生活の中でも心掛けていくことが大切だと思います。また、現在安全な水を飲むことができていない人たちのために、子どもでもお店に置いてある募金箱があったら、寄付などをしていくと「みんな」で取り組めます。私も世界中の人の一人として、取り組んでいきたいです。

【入選】

教訓をもとに

熊本県 熊本信愛女学院中学校 二年 重並 リナ

令和五年十月、熊本県菊陽町に台湾の半導体大手のTSMCが進出した。

熊本は、福岡に次いで九州でも二番目に人口の多い県ではあるが、なぜ福岡ではなく、熊本に進出したのだろうか。私は、単に熊本の方が、土地も賃金も安いだろうと思っていた。

しかし、「半導体」と一言でいっても、口で説明することが出来なく、TSMCで作られているものはどういうもので、どういった用途があるのかを調べていくうちに、TSMCがなぜ、熊本に進出したのかが理解できた。

熊本が、進出先に選ばれたのは、半導体の生産に欠かせない「水資源」が豊富であることが深く関わっていた。

半導体の生産には、純度の高い超純水が必要であり、一日に何万トンもの水を確保しなければならなかった。ここ数年、台湾は歴史的な水不足であり、いろいろな節水や水再生の技術の開発に励んできたが、間に合わず、安定した生産のために、「水どころ熊本」が候補に挙がったということだった。

私は、このことを知って、熊本の水が台湾の企業に使われてしまい、いつか枯渇してしまうのではないかと心配になった。

二十四時間蛇口をひねれば、いつでもミネラルウォーターが飲める、このことが当たり前のようで当たり前ではないことに気が付いたのは、平成二十七年、四月の熊本地震のときだった。

私の両親は、自衛官なので、発災当時は何日も帰ってこなかったのですが、近所の祖父母の家で過ごした。断水していることを祖父母から聞かされているのに、喉が渴いたから蛇口をひねり、断水していることを思い出し、トイレで用を済ませ、流水ボタンを押して流れないことで、また断水を思い出す。水の出ない蛇口を一日に何度ひねったことだろうか。出

ないことに落胆し、その光景を一日に何度も目の当たりにした祖父が、ある時、家中の蛇口に、

「水×」

という貼り紙をしたのを覚えている。単に私が幼かったという理由だけでなく、水という存在があつて当たり前というものだからに他ならない。私達は、熊本地震で水の大切さを経験した。しかし、復興が進むにつれ、あの時の気持ちを忘れてはいないだろうか。

水って大切なんだな

水がないと生活できないんだな

幼い頃に経験しているはずなのに、それっきりで、何か行動にうつせているだろうか。

TSMCが大量に水を使い、枯渇してしまうのではないか、という心配をする前に、まずは自分の行動・意識を改めることから始めるべきであり、今すぐに始められることだ。かつて、汚染されていた水によって水俣病が発生した。熊本は地下水が豊富な分、こういった汚染にも気をつけていかなければならない。

大きな取り組みはなかなかできないが、一人一人が、「いま」からできる努力を始めることが大切だと思う。

【入選】

大好きな川の守り方

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 古閑 迫 凛

私は川が怖くて、でも大好きです。

水の作文を書くとなった時、真っ先にでてきたのは坂本の水害でした。あの時のような雨は初めて見ました。落ち着くいつもの雨ではなく胸騒ぎがする雨でした。遊んでいた河川敷は水でいっぱいになっていて、鳥が沢山居て大好きな川もスマホの画面では大きな丸太に濁った水、今にも橋が飲み込まれんばかりの水位、同じ川とは似ても似つかないものでした。その時に初めて私は「川が怖い」と思うようになりました。

それでも、春はオタマジャクシが沢山居て周りの景色が明るくなって、夏は魚が沢山居て水切りの腕を友達と競って、秋は落ち葉で赤茶色に染まってとても綺麗で、冬は入れないけれど自分の愚痴を聞いてもらって、友達ができた時も親に怒られてしまった時もいつも何も言わずに聞いてくれて、落ち着かせてくれるのは粉れもなく川でした。

だから私は嫌いになれない。勿論、人の命を奪ったあの川は許せないし許そうとも思わない。けれども、これ以上川に人の生活を、命を奪わせない。

だから私は気象予報士さんになりたいですそしていつか、絶対に水害が生活の脅威にならないようにしたい。正確に予測できるようになって被害を防ぎたいです。

でも、水害の被害を減らすことは今の私にもできるはずです。日頃からニュースをよく見たり、いつ来ても心配がいらないように防災リュックをつくったり、避難するときの経路を友達や親と確認したりといったことで準備があれば憂いなしとよく聞きます。その言葉通り、準備していたら水害に対する不安も少し和らぐ気がします。

私は今回、川の洪水について書きましたが川に関係する災害は非常に多いです。調べたことを2つまとめました。

1つ目は急な大雨による洪水です。最近よく聞くゲリラ豪雨、梅雨の

時季になると学校や家などでよく見かけます。規模が小さく、突発的かつ散発的に起こるので予測がしにくいみたいです。これにより川の水位が急増し堤防の高さを超え、襲いかかってきてしまいます。2015年の関東・東北豪雨、2018年の西日本豪雨、2019年の東日本台風などで特に大きな被害を受けました。洪水の怖いところは雨が弱まっても水位が上がることです。このことを忘れないように災害対策に取り組みたいです。

2つ目は川の遡上です。正直、私は調べるまで全く知りませんでした。地震による二次災害として津波が有名ですがそれに連動して川の遡上が起こるといわれています。調べる過程で東日本大震災とある男性が撮影した映像を見ました。すごいしやうげきでした。川が遡ぼっているのが直観的に分かりました。私の住んでいるところは海が遠いので、津波がこないから安心だと津波への対策を怠っていました。けれども川にすぐく近いので川が遡ぼってきた時の想定をしながら津波への対策をしていこうと思います。

調べて思ったことが1つあります。それは正しく知って、正しく怖がるのが大切ということです。災害は怖くて目を背けたくなる内容ばかりです。けれども、それを乗り越えて、向き合えないと本当の意味で自然と共生できないと思いました。

【入選】

安全で美味しい水を当たり前に

熊本県 真和中学校 一年 中村 慧

私が、「水の作文」を書いてくるという課題を出されたときに、一番に頭に思い浮んだことは、「水道水嫌いだっただけ私が、熊本の水道水だけ美味しく飲むことができた」ということだ。今から、この出来事について、熊本とそれ以外の地域の水事情について、水の大切さについての、三つを話していこうと思う。

「えっ！なんで、美味しいの!？」

これは、約一ヶ月前、私が福岡県から熊本市に引越してきた日、喉が渇き、仕方がなく、臭いが苦手で嫌いなはずの水道水を飲んだときに思わず発してしまった。なんと、独特な臭いと味がなく、「美味しい」と感じる水だったのだ。福岡と熊本の違いって何だろう。疑問に思い調べたところ、福岡はダムに雨水などを溜め、水の濾過や洗浄をする施設にそれを送り、浄化した水を、水道管を通して、家などに届けている。それに対し、熊本市は、100%地下水を使っているというのだ。人口が七十万人を超える都市にも拘わらず、生活用水が地下水で賄える。これは、日本では唯一、世界でも希少な例だ。私は、蛇口からミネラルウォーターが出ることから、熊本の水道水が美味しい理由と熊本県が「水の国」と言われていることに納得した。

しかし、さっきも述べたとおり、少し北上するだけで、水道水自体は飲めるが、独特な臭いと味がする。だが、日本の中で福岡県の水道水が特別劣っているわけではない。東京、神奈川、埼玉などの関東の方が消素などの薬がたくさん入っており、臭いが強く、美味しくないと言われている。私は福岡を例に出したが、このように、福岡だけではない。ほとんどの都道府県に当てはまることだと思う。無論、海外もだ。水道水が安全に飲むことができる国は、世界中で十二カ国しかないと言われている。なんと、アジアは、日本とアラブ首長国連邦の二カ国しかない。しかし、アラブ首長国連邦は、貯水槽の清掃が十分ではない。日本と比較

的に近くにある、中国や韓国でも、水道水は飲めない。そのため、ペットボトルなどの安全な水を飲んでいる。アフリカなどでは、今でも安全な水が飲めずに命を落とす子供もいる。個人の意見だが、無駄に水を使わずにして水道代を浮かし、その分のお金をユニセフなどに寄付する方が合理的でよいと思う。とにかく、日本の水道水は、世界でもトップレベルにきれいなものだ。五十一もの厳しい検査に合格した水だけが、私たちの家や、学校などの施設に届く。それが世界を通して考えると、決して当たり前のことではない。だが、熊本の水道水は、「飲める」だけでなく「美味しい」のだ。それは本当に素晴らしいことだと思う。

美味しく、安全な水が蛇口から出てくるのだから、その水は大切にしなければいけない。限りある資源である水を、無駄使いしてはいけない。このような最低限のマナーは、「水の国」である熊本の住民として守らなくてはいけないことだと思う。そして、どの国でも誰もが安全な水を飲める、どここの都道府県でも美味しい水道水が飲めると、思い違わないでほしい。美味しい水が飲めることは、当たり前のことではない。いずれ、世界中の全ての人々が美味しい水を飲むことができ、全ての人々が口を揃えて「当たり前」と言うことができるために、一人一人が地道な努力を一生懸命積み重ねていくことが、今一番大事なことだと考える。

【入選】

身近な水といのち

熊本県 真和中学校 一年 頼藤 維生

僕は朝起きて、どれだけ水と接しただろう。ふと考えてみた。顔を洗うのも、歯磨きをするのにも水を使った。朝ごはんを食べた味噌汁も水を使って作られているし、トイレも水を使って流した。さつき着替えた洋服も水で洗ったもったものだ。この後、夜になって入ってお風呂も水を使う。あまり考えることなく水を使っているけれど、改めて考えると水は僕たちの生活にとっても身近にあるものだし、必需品だ。今年起きた能登の地震でも水が復旧しなくて大変だったと聞いた。だけど、僕たちは気づかないうちにその必需品である水を汚染してしまっているのではないだろうか。僕は、それが気になって水質汚染について調べてみた。

本を読んでみると多くの地域で水質汚染が起こっていた。歴史を振り返ると、熊本で起きた水俣病も海の水をメチル水銀で汚染してしまったことによる水質汚染が原因の病気だし、イタイイタイ病も生活用水がカドミウムで汚染されたことにより引き起こされた病気だ。僕が住んでいた岡山でも、最近でもある地域で住民の人が飲んでいる水が、有気フッ素化合物という物質により汚染を受け、住民の方が長い間その水を飲んでいたという事件が起こった。いろんな水質汚染の事件において何が怖いかというと、みんな知らない間にその汚染を受けた水を普段の生活用水として利用していたことだ。政府だけで対応できないことも多々あるという。僕たちはどこまで意識したらいいのか、少し怖くなった。

僕自身が水質汚染の影響を受けというよりも、水質汚染の影響を受けた人と一緒に時間を過ごしたことがある。昨年の秋に、お父さんの知り合いで水俣病の被害を受けた患者さんとご飯を食べる機会があった。最初はみんな元気そうで水質汚染による被害はあまり怖くないのかなと思った。だけど、患者さんたちは、言葉を発するのが難しかったり、ご飯を食べるのが大変だったり、うまく歩けなかったり、被害が起きて七十年近くたっても、様々な症状に苦しんでいらつしやった。僕はお父さん

に「かわいそうだね」とつぶやいた。そうするとお父さんは「このような人達は沢山いるし、今からもこのような問題起きるかもしれないよ」と言った。水質汚染なんて怖くないのかなと思った自分が恥ずかしくなったし、水質汚染の怖さを目の当たりにして、身近にあるものだからこそ、その影響の大きさというのが身に染みた。

僕は考えてみた。どうすればみんなが水質汚染の影響を受けなくてよくなるのか、そのために僕は何を頑張ればいいのか。家で使っている食器洗いの洗剤を節約することだろうか、コンポストのようなものを使つて資源のリサイクルをすることだろうか。どれも根本策ではないような気がして、自分の非力さが悲しくなってしまった。だけど、その時、水俣病の患者さんと会った時に父がいつていたことを思い出した。父は、「環境のことを考える時は、いのちのことも一緒に考えて」と話してくれた。まだ答えはわからないけれど、もしかしたら、水を汚染する、それは水をとっても身近なものとして利用している僕たちの生活だけでなく、僕たちのいのちにも影響を与えるということ、それを認識する必要があるということかと思った。

水はとてものだが、身近だからこそ水を汚染してしまうと、知らず知らずのうちに、その水質汚染の影響を人間自身が受けてしまい、僕たちのいのちへも影響を与えてしまう。水をきれいに利用するという気持ちや、将来の社会にきれいな水を残していく努力を、僕たち全員が持たなくてはいけないのだと思った。今日はお風呂に入る時も、水に感謝しながら入れそうだ。

【入選】

水を尊ぶ

熊本県 真和中学校 一年 大仁田 勇人

五月の連休初日、僕は父の実家の掃除をしにいった。父の実家は、熊本市から遠く離れた、天草にある。天草は熊本県と天草五橋でつながっており、海の向こうには長崎県の雲仙普賢岳も見えて、とても景色がよい所だ。

天草はイルカウォッチングなどで有名だが、意外に温泉数も多い。天草地域の活性化のために、各町に温泉が設けられているようだ。天草市民は付近の温泉へよく足を運び、心と体を温めている。

僕は、母の実家付近や父の実家付近の温泉に何度か行ったことがある。その温泉は、

「栖本温泉センター 河童ロマン館」「苓北町温泉センター 鱗泉の湯」だ。どちらも気泡風呂や家族風呂などが備えられ、疲労を回復することができるとてもよい温泉だ。そこで早速鱗泉の湯に行ってきた。

しっかりと体を洗った後、湯に体を沈めた。その瞬間に、

「あー。」

と声をもらしてしまった。僕は体が温まる気持ち良さを感じた。一緒に入っていた父も、

「今日の疲れが吹き飛ぶぐらい、とても心地良いね。」

と言った。それから五分ほど湯につかった。すると、僕はある事に気が付いたので、

「お父さん、湯の中で肌を触ると、ヌルヌルするよ。なんでだろう。」と父に聞いてみた。すると父は、

「ここはアルカリ性の温泉だからだよ。あの看板を見てごらん。」と答えた。看板を見ると、

「この温泉の湯の中で肌を触るとヌルヌルします。なぜなら、このアルカリ性の湯が肌の汚れを綺麗に落としてくれるからです。この湯につかることで、アトピー体質や敏感肌の症状の緩和、くすみの解消、美肌効

果、疲労回復などが期待されます。」

と書いてあった。この温泉はとても貴重で数に限りある資源だと分かった。また、その右にも看板があり、湯の処理について説明されているようだった。読んでみると、この温泉は湯船の排水溝から常時水を集め、集毛器とろ過器で完全に汚れを除去して再利用しているが、人が入ってあふれた水は再利用していないことが分かった。温泉は貴重な資源だからこそ、毎回綺麗にろ過して、できる限り再利用しようとしているのだと知った。つまり、その温泉を使用する私たちは、温泉を貴重な資源ととらえて、節水を心がけるなどして、大切に使用しないといけないのだ。僕は温泉の体洗い場に、節水にご協力下さい、と書いてあった理由がはつきりと分かった。

僕は温泉に入って、限りある資源である水の大切さを改めて感じた。僕たちは水を温泉だけでなく、飲料や農業などいろいろな場面で活用している。だからその分大量に水を使う責任は重大だ。その責任を僕たち人間がしっかりと持たなければ、水はあつという間になくなってしまいうだろう。現在世界では、アラル海というかつて世界四位の大きさであった湖が、人々に乾燥地帯を農地に変えようと強引に水源から水を引いてしまったために、水面が低下して湖面も縮小してしまい、消滅しようとしている。またそれによって塩分濃度が上昇して、水不足に加え豊かな生態系の破壊まで招いてしまった。これについても、人々が川の水を使うことに責任を持ち、川の水を使うことで周りにどんな影響を及ぼすのか考えればこのような悲劇は起こらなかつたであろうか。

僕は、水を大事にしつつ、そのまま使い続けても周りに影響を及ぼさないのか検証することが必要だと考える。そこで人々に水をできる限り再利用する温泉の取り組みを広く認知してもらい、水を尊ぶ生活をしてほしいと思った。

【入選】

美しい熊本の水

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 秋永 奈央

あなたは、SDGsの6項目目を知っていますか。6項目は、「安全な水とトイレを世界中に」

です。私はこれを初めて聞いた時、そんなのあたり前ではないかと思いました。しかし、調べてみると『水道の設備がない人は22億人以上います。トイレがなく道ばたや草むらなど屋外で用を足す人は4億1900万人です。』とあり驚きました。当たり前だと思っていたことがこんなに多くの人にとって贅沢だったことを知り、これからは水を大切にしようと思いました。そのため、私は二つのことを実行することを決めました。

一つ目は、花や盆栽、木などの水やりは雨水を使うです。私はいつも新しい水を使っているのでジョーロを家の庭の雨水が溜まる所に置きました。

二つ目は、使い終わった水道のじゃ口はしっかりと閉めるです。水がポタポタしていると時間が経てばたくさんの水が無駄になってしまうのでしっかりと閉めます。

ところで、水の恵と言われる水ですが、私には怖いという印象も持っています。それは災害です。二〇二〇年、七月三日から四日にかけて二十四時間で四百ミリメートルを超える雨量を観測した、令和二年七月豪雨は、熊本県に甚大な被害をもたらしました。人吉市に住んでいた親戚も被害を受けました。こんな身近で災害が起こることはとても怖かったです。当時、私は緊急放流という言葉をよく耳にしました。これを機にダムに興味を持ちました。ダムは洪水を防ぎ、川の水位が一気に上がらないようにしてくれます。しかし、ダムの建設に反対する人がいることを知りました。その理由は、川の水質を劣化させ、そこにいた生物が住めない環境になり川の状態や川の周辺の環境が変わってしまうからだそうです。それを聞き、ダムは大きな影響を与えることを知りました。私

はSNSで水にまつわる動画を見ました。その動画のコメント覧には、「熊本の水はおいしい。」

とたくさん書いてありました。私もそう思います。熊本の水に誇りをもっている人は大勢いると思います。そのため、ダムの建設により、熊本の水がきれいや、おいしいという印象をくずしてしまう可能性があるなら、設置しない方がいい気がします。しかし、豪雨により人の命をうばってしまう可能性があります。私には、どちらが良いかなんて決めることができません。

このことから私は、ハザードマップや避難場所の確認をし、非常用グッズの確認をしようと思いました。

熊本の自慢として、トマト、スイカ、不知火などがあります。これらも、水によって育てられます。私達も水によって生きています。水がないと何もかもがダメになってしまいます。やはり、水の存在はとても大きいことが分かりました。

このように、水がもたらす影響は私達の生活に大きな影響をもたらします。飲み水になったり、農作物を育てたりする水。一方で、豪雨、津波などで人の命をうばってしまう水。私は、水のメリットとデメリットを知りメリットをできるだけたくさん利用していきたいです。例えば、熊本の水の美しさを世界に広められるように、美しい熊本の水の写真を広めたいです。そしてこれからもずっと熊本県民が熊本の水に誇りをもっていけるようにしたいです。

【入選】

水の大切さ

熊本県 真和中学校 二年 川口 丈太郎

この世界には、いろいろな所に水がある。水たまりや池、川や湖、それから海など。

川や海などを見てしまうと僕は、「ずっと見ていたい」という気持ちになつてしまう。なぜなら美しいからだ。魚は泳ぎ、葉は流れる。このようなことを僕は美しいと思う。

そして水の音を聞くと落ち着く。雨の降る音なども聞くと僕は落ち着くのだ。そして、行っていることによく集中することができる。僕は、たまに雨の降る音を聞きながら勉強をしている。そうするとなぜか聞いていない時よりもよく集中することができるのだ。

人間や世界にとって「水」というものは、なくてはならないものなのだ。例えば、水を約3日取らないと命が危険になるという事を聞いたことがある。それほど水は人間にとって生きていくうえでは必ず必要なものなのだ、ということが出来る。

この地球にもし水がなかったら僕たち人間や生物なども存在することができていなかったのだ。

しかし、生きていくためには水が必要だが水によって命を落とすこともある。それは、津波などの災害だ。多くの人々が東日本大震災で亡くなり、まだ波に流され見つかっていない人も多い。このように水は命をつくり、命を奪うこともできてしまう。

毎年、夏のニュースでは子供が海やプールなどで溺れ死亡してしまつたという事故を聴く。今年の夏もそのような事故が起こつてしまいとても怖い。このような事故が少しずつなくなつてほしいと願っている。

僕が水を大切にしていこうと強く思い始めたのは、小学校の中学年くらいからだ。『ポタツ、ポタツ、ポタツ』と水滴が何回も蛇口から出てきていた。僕はとっさに蛇口をひねり水を止めた。なぜなら授業で水

の大切さについて学んだばかりだったからだ。

それから誰も使っていない蛇口から水が出てきていたら止めた。自分の使う水の量にも気をつけ節水を行った。そのように水を大切に使うていこうと思つていなかった時は、石鹸で洗っている時でも水を出したままだった。今そのことを思うともつたいなかったと後悔をする。

飲み水などでもできるだけ節水をしようと思つた。生活をしている。飲む量を最初に決めて飲むようにしている。

世界には、きれいな水がなく、汚い泥水を飲み水として飲んでいる人々がいるとテレビなどで知った。泥水を飲み死亡するという事もよくあるそう。いつか世界中の人々がきれいな水を使えるような世界にしたいと思つた。

そこで僕は、節水をしていこうと思つた。きれいな水が無駄にすることはできないし、汚い水を使っている人々のことを考えると水を大切にしていこうと思えるのだ。

僕の住んでいる熊本県は、とても水がきれいといわれている。水道の水も飲むことができる熊本に住めてとても僕は、うれしい。

そのことを考えると、より水を大切にしていこうと思ふことができる。水は、無限にはないと思うのでこれからも大切に水を使っていこうと思う。

【入選】

子供たちの命と未来のために

今、私たちがさりげなく使っている水。水は私たちの生活の中で一番欠かせないものです。料理に使ったり体を整えたりするのに使っています。日本は海に囲まれ、河川も多くあり、水に恵まれた国だといえます。

でも、水が日本のように当たり前に使える国は多くはありません。

世界では22億人、つまり10人に3人が安全に管理された水を使用できずにいます。世界にはどんな水問題があるのかも詳しく考えていきましょう。

10人に一人にあたる7億8千500万人は基本的な水サービスを受けることができていません。このうち1億4千400万人は、湖や川、用水路などの未処理の地表水を使用しています。安全に管理されていない水は、動物の糞尿やウイルス、菌が入り混じっているためそのまま飲むのは非常に危険です。汚れた水や不衛生な環境により毎日800万人の子供が命を落としています。また年間30万人の乳幼児がなくなっています。

しかし、問題は「水が汚い。」だけではありません。一人の女の子は水をくむのに毎日8時間費やしており、世界中の女の子や女性は水汲みに費やす時間は2億時間です。トイレや手洗いの設備が身近にない状況も大きな問題です。

では、どうしたらこの問題を防げるのでしょうか。今、日本ではこのような問題を助ける支援をしているのをしていますか？それは、ユニセフです。ユニセフでは子供たちが地域の中でいつも安全に水を使えるように世界中の村々や学校、保護センターなどに給水所を設置するなどの取り組みを行っています。実際にこの取り組みをしたことによって下痢や病気の病例が減り子供たちが元気になるそうです。

私たちよりも小さい子供たちがほかの国では多くなくなっています。ユニセフでは2030年までに世界中のすべての子供が身近な場所です

熊本県 天草市立新和中学校 二年 浦中 美恋

が使えるようになるのを目指しています。少しでも子供を助けるために皆さんができることはあります。

私は今実際にユニセフ募金を行っています。ユニセフ募金は日本各地の学校でも行われていて150国以上の国の子供たちを救うために使われています。私は小学校の頃からユニセフ募金に参加してきました。実際にこの募金のおかげで救われている子供が多くいます。学校だけでなく皆さんが普段行くコンビニエンスストアにも募金箱が設置してあることは知っていますか？お釣りを入れるだけでも募金活動になっています。毎回お金をたくさん入れる必要はありません。少しでも「助けよう」という気持ちが大切です。今までできていなかった人も1円でも多く募金をしましょう。また、少しでも世界の水問題を知るためにインターネット調べたり自分にできることを考えたりして少しでも多くの子供を救いましょう。

あなたの行動で世界が動きます。

【入選】

快適に暮らすために

熊本県 八代市立第八中学校 一年 遠山 響

「好きな教科はなんですか」と書かれたプリントを前にし、私は考えることなく、「体育のプールの授業が好き」と書いた。プールが好きだからといって泳ぐのは得意ではなかった。

真夏日にあるプールの授業は最高だった。私はプールの水を見ながらふと思った。「どこから流れてきているのだろう」後日知ったのだが、プールの水は、八代の地下水から流れてきていることを知った。地下水とは、雨が地表面から地中にしんとし、土の中に存在する水だ。熊本の豊かな自然からできた地下水を学校のプールに使っていることを知って私はうれしく思えた。地下水だけではなく、山から流れてきた水もまた、美しいものだ。

夏休みに、母と、とさきの河原へ行った。その川の水はプールの地下水とはちがいが、すきとおって美しいものだった。足を水につけると、ピリッと冷たかった。少しかがんで川の中を見ると小さな魚やカニ、墓にもたくさん生き物が泳いでいた。ゴミ一つない。自然が生み出した美しい川だ。きつと生き物たちも快適に暮らしていることだろう。しかし川によって快適に暮らせない生き物は数えきれないほどたくさんいるのだ。学校の帰り道すぐにごった川を見つけた。それは、にごっているだけでなくペットボトルや空きカンがすてられており、鼻がつんとするにおいがした。ペットボトルなどがすてられているなら、もつと小さいゴミも川にすてられているかもしれないと思った。その小さいゴミを川に住む生き物が食べたなら、と考えると心が痛んだ。小さなゴミを食べなかったとしても、川の環境が悪くなり、生き物が快適に暮らすことができないということなのだ。前に、ニュースで、ウミガメがネットにからまるものや、魚がゴミを食べ、海にうち上げられるものを見たことがある。私が川で見た状態は、ニュースで見た状態とある共通点がある。それは、川や海に平気でゴミをすてる人たちがいるということだ。

水の国といわれる熊本でも川などをよごす人たちがいれば、どんなにきれいな川だったとしても、必ずよごれてしまうのだ。地球上には、数ヶ月雨が降らないことから発生する干ばつが起きている地域が増えてきているのだ。その中で水不足がおきている。水は、限りなくたくさんあるわけではない。その中で私たちは生きている。

人間は、水がないと生きていけない。もちろん水の中で暮らしている生き物も、植物でさえ水なしでは生きていけないのだ。

ふだんなにげなく使っている水だが、よくよく考えてみると、私たちが生きていく上ですごく大切なものだ。このまま川にゴミを捨てる人が増えると私たちの暮らしに、えいきょうをあたえてしまうこともこの先おかしくはない。だからこそ、今、一人一人が水を使うこと、あつかうことに責任をもち、生活していくことが、今の私たちの一番の目標ではないだろうか。

【入選】

今私たちにできることは

熊本県 八代市立第八中学校 一年 池田 圭吾

熊本の水は、とても冷たくてきれいだ。そのきれいさは全国の上位を争う程で、くま川が私たちの住んでいる近くに流れている。くま川は、清流という美しい風景で知られていて、多くの人が訪れる有名な観光地となっている。晴れた日にくま川に訪れると、太陽の光が川に反射してまぶしく、見ていると私の心がおだやかになってくる。しかし、最近では、くま川の水のきれいさが危険な状態になっている。川の近くまで寄ると、ごみなどがあることに気づいた。このままでは、このきれいな水を残していけないのではないかと思った。

私は、小学校一年生のころ川で足をすべらせてしまい死にかけたことがあった。幸いにも、友人が助けてくれたので、私は命を落とさずにすんだ。川からあがった私の服は、びしょびしょにぬれて、ごみが体にまとわりついていて、そのとききれいだと思っていた川をよく見てみると、川や岸にごみが落ちており、とてもおどろいたことを今でも覚えていいる。また、こんなこともあった。小学校六年生のころ久しぶりにカモや色々な魚がいる川を見にいったとみると、私は「え？」という言葉を書き言になるほど、おどろいた。その川には、たくさんのごみが落ちてあり、その横でカモの親子が泳いでいた。私には、そのカモが泣いているように見えて、この親子のカモはもうここに住めなくなるのではと不安になった。私は、こんなきれいな水をゴミのようによごしたのはだれだ。動物のすみをなくしたのはだれだ。という、二つの感情がでてきて、それがいかりへと変わった。私は、直接川にいったゴミをすてるだけではなくて、日常生活から川をよごしたりしてないか私たちに今できることは何なのかを考えてみた。すると、私たちもゴミをすてていなくても、日常生活でゴミのような物を川に流しているということが分かった。例えば、洗ざいのようにせんとくをするときには、かかせないものだが、実に川をよごしていると分かった。今私たちが、将来のためにできるこ

とは何なんだろう。まず、私たちが出来ることは、川にゴミをすてないという当たり前のことだ。地域の人と協力してそうじしていくべきだと思う。さらに、普段何気なく水を使っているため、その水の大切さに気づいていないこともある。それを考えてみると、私たちは節水をする事ができる。だした水はだしっぱなしにせず、一回一回きちんとためて水のありがたみをしっかり理解して使っていこうと思った。

だが、私一人がしても水がきれいになるというわけではない。熊本の人、日本中の人が今自分がやるべきことを考えて取り組んでいくべきだと思う。ゴミをなくし、川や水を宝物のように大切に感謝してあつかっていくべきだ。また、私たちの取り組み次第で、未来の子供たちにも水の恵みを受けつがれることができると思うと、私たちの日常生活はある意味責任じゅうだいだと思うでしょう。さきほども話した通り、最近では、くま川の水のきれいさが危険な状態になっているという課題があります。水の汚染により、水のとうめい度が低下、生物が何気なく使っているため、その貴重さや大切さに気づいたことがある人も少なくはないでしょう。今、私たちにできることは何なのかを考え、水を共に守り続けていきましよう。

【入選】

世界に誇れる熊本の水

熊本県 真和中学校 二年 北川 奏羽

「世界にも誇れる熊本の水」

一昨年、熊本に引っ越してきてそう言われる理由を身に染みて感じた気がした。

私はよく家族と一緒に祖父母の家がある阿蘇へ遊びに行くことが多い。ある日、観光がてらにと父が提案した南阿蘇にある「白川水源」に行った時のことだ。特に水にも観光にも関心がなかったためやる気ではなかった。しかし、山道を歩いて行き、道の横を流れる小川の水の透明さに気付いた時、向かっている先にある水源へ期待と興味を持った。両端にたくさん木が生いしげる道から少しひらけた場所へと出て、受付を済ませ、階段を登った。その先に見えたのは、言葉では表しきれないほどの光景だった。全体的に青く澄んでいて水が湧きでる場所では砂が水の勢いで舞い上がり太陽の光できらきらと輝いていた。私はあまりにも神秘的な光景に息を飲んだ。

その後、白川吉見神社へお参りに行き観光を終えた。帰りの車では、熊本の水についての話題で持ちきりだった。後から白川水源について調べてみると、白川水源の水は環境省の「名水百選」にも選ばれるほど有名な水源地だった。この一日で私は熊本の水への関心が深まった。

そこで私が目につけたのは、台湾の大手半導体メーカー「TSMC」の進出による水問題だ。熊本に進出を決めた理由は、交通アクセスの良さなどもあるが、半導体を作るにあたってかせない水資源が豊富なことにある。半導体を作るには純度の高い水が大量に必要だ。しかし、今、台湾は歴史的な水不足にひどく苦しんでいる。水が減っていく一方で、安定した生産のため熊本への進出を決めたのだ。だが、県民は熊本の水が奪われるのではないかと心配する声も多い。このような事態に半導体メーカー「TSMC」も水のリサイクル、水の浄化を進めている。例としては、工場で使用された水を可能な限り元の純水に戻したり、水処理

薬品も最適な量におさえ、使用量を減らしたり、排水に含まれるフッ素やリンなどを再利用するなど、様々な方法で水の保全に努めている。私は企業がしっかりと熊本の水の保全を問題視し、対策をとっていることを嬉しく思った。

今、世界規模で深刻化している水不足問題。これから熊本の水に注目が集まることも少なくない。そんな状況だからこそ、水の保全にもっと関心を持たなければならにと私は考える。

【入選】

自然の賜物

熊本県 真和中学校 二年 杉村 颯斗

水と聞くと、皆様は何を思い浮かべますか。やはり、僕は川や海へ旅行に行った事を連想します。小学校の時に川に行った時に見た水、沖縄やシンガポールで見た水など、旅先で見た自然の水の中でも特に興味深い。水とは命、水とは災い、人は水が無ければ生きていけないのです。

初めに、水を宗教的な安から見ていきます。水は宗教的な意味では特別な存在です。多くの宗教では、水は浄化と再生の象徴と見なされています。水は心を清める力を持ち、罪や悪からの浄化を象徴します。また、水の流れは永遠の流れであり、生命の連続性を表します。水は祈りや儀式で使用され、宗教的な神聖さを持つものとされています。水は宗教的な結婚式や洗礼の儀式でも重要な役割を果たし、人々が再生や新たな始まりを祝福する際に用いられます。全ての生命の源たる水は、宗教的な教えにおいても尊さと敬意を表すものなのです。

続いて、水には音楽的にも素晴らしい物だと言う事が分かりました。どうやら音楽には水の流れや波の音、雨の音など、水に関連した音を楽曲に取り入れた表現手法があり水の音はリラックス効果やストレス解消に効果的であり、心をいやす効果もある用です。また、水の音は穏やかなリズムや幻想的なメロディを生み出し、音楽の世界に特別な感覚をもたらすことがあります。水の音楽的な役割を調べると、聴衆に自然の美しさや平和を感じさせる一方、創造性や感性を高める事もある用です。音楽において水の音を活用することで、新たな表現の幅が広がり、聴衆に豊かな体験を提供することができます。

では次に、初心に帰り

「水とは何なのか。」

について考えていきます。水は生命にとって不可欠な存在です。私たちの身体は約60%が水で構成されており、体温の調節や栄養の運搬、代謝の維持など、多くの生体機能に関与しています。水は地球上でも非常

に重要な存在であり、生態系のバランスを維持する役を果たしています。多くの生命は水中で生活し、水は生命の住む環境としても重要です。また、水は植物の成長や農作物の栽培にも欠かせません。水はさまざまな形態で存在することができます。液体の水は私たちの日常生活で最もよく目にする形態であり、飲料水や洗濯などに利用されます。凍った水は一定の温度で安定して形で存在し、氷河や雪として地表をおおっています。水蒸気は気体の形態であり、大気中に存在しているために水循環が行われます。水は独特の性質を持っています。例えば、水は他の物質に比べて比熱が大きく、温度変化に対して流動性が高いという特徴があります。これにより、水は熱を吸収しやすく、涼しい環境を作る効果があります。また、水は溶媒としても優れているらしく、さまざまな物質を溶かすことができます。しかし、現在世界中で水不足や水質汚染などの問題がありますね。なので、持続可能な水質管理や浄化技術の開発が求められている用です。

僕達は、様々な特徴を持ち、自然の賜物たる水を守る必要があるのです。

【入選】

世界一汚い水

熊本県 熊本信愛学院中学校 三年 上野 こはる

私は以前、インドとベトナムに住んでいたことがある。人生のほぼ半分を海外で過ごしてきたので、一時帰国した際は、毎回の様に日本の水の綺麗さに感動していた。

私が今まで住んでいたベトナムもインドもどちらも発展途上国の国に挙げられる。発展途上の国なので、貧富の差はおろか、街中ですら全く衛生環境が整備されていない。中国を抑え、世界最多の人口となったインドでは今でこそ急速な成長を遂げているが、その裏では深刻な水問題に直面している。インドは水道水が全く飲めない。水道管が破損していたり、大腸菌による汚染が多くみられ、その為インドで利用可能な水は日本の三分の一程度だ。二〇三〇年までにはインド人の約四割が安全な飲料水を手に入れる事ができないことが予測されている。また、インドでは毎年十万人以上が水を媒介とする病気で亡くなっている。これらのことから、インドは世界で最も劣悪な水を飲んでいる国とも言われている。以前、私も一度だけインドでお腹を壊した事がある。飲み物の中の氷に当たったのだ。氷はほぼ水道水から作られている。その日から私はインドの水の汚さを十分に叩き込まれた。とはいえ、水というものは生きる上での必要不可欠な存在だ。だが水環境が低質なインドでは、水道水を気軽に使えない為、インドに在住している日本人は皆、ペットボトルの水を買っていた。それに加え、インドのマシジョンでは浄水器やウォーターサーバーが設置してあるのがほとんどだった。飲料用や調理用はペットボトルの水、手を洗ったり食器を洗う際は浄水器を使うなどをして使い分けていた。日本のように、全て水道水一括で済ませることはなかった。その為、日本に帰ってきた時は、その綺麗さに驚いた。何より、水道水がそのまま飲めるという事実は今でもとてもすごい事だと思っている。日本に本帰国した時は数カ月の間、水道水を飲む事に抵抗があった。今まで私は一度も水道水を飲んだことがなかったからだ。

世界で水道水がそのまま飲める国はたったの9カ国だ。その中でも日本は水の綺麗さランキング上位を占めており、アジアで唯一ランクインしている。私は、もう日本に帰ってきて半年ほど経つが、今当たり前のように使っている水は、とても綺麗で整った環境にある大切な資源だと気がついた。これは環境が完全に整っていない発展途上の国にいたからこそ気づく事が出来たと感じる。蛇口を捻るだけで、いつでも安心な水を手に入れる事がとてもすごい事だと思う。特に熊本は、日本の中でも水が綺麗な県だ。海外で経験した体験を生かして、周りの人達に水の大切さを伝えていきたいと思う。

【入選】

命の水

熊本県 氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校 一年 矢野 愛佳

「水とは、何か？」

水は、私たちにとって何か。そう言われるとなんだろうと感じる人もいるかもしれませんが。

私は、水とは生活する上でかかせないものだと思います。私たちがすんでいるこの地球は、水が飲める国と飲めない国があるし、日本は、水がとてもおいしいし、とてもきれいだと思います。そのうえ熊本はとくに水がきれいです。そんなたぐさんのありがたみに感謝してすごしていると思います。水があるのは、あたりまえではない。日本は、水がたぐさんとれるし、きれいです。しかし、砂漠などは、水がとれません。とれないということは、人々が水を飲めないということなんです。水を飲まなければ、生きられないという大切なことを教えてくれるものでもあります。この水の大切さ、ありがたみをもっとたぐさんの人たちに知ってほしいと思います。

私は、ゴールデンウィーク中に、家族で毎年行くカヌー体験をしました。五ヶ瀬川の蘇陽峽に行ってカヌーをしました。とてもきれいな自然の中カヌーをこぐのは、とっても楽しかったし、いい経験になりました。毎年行っていると、少しずつなれてきます。なので時間が早く終わってしまったので、サップもしました。バランスがとりにくく、むずかしかったです。このようなたぐさんの経験ができるのも水のおかげだし、とても大切な思い出ができました。家族みんなでもた行きたいです。

水などの自然でできた、川、海などは、このような楽しい思い出もつくることができます。しかし、時には私たちの命を危険にさらすものでもあります。例えば、私たちも経験している、球磨川の洪水。この洪水になる前に、ひさつ線という路線があり、昔その列車にのってかご島に行きました。小さいころの思い出があるからこそ、一日でも早く復興してほしいなと思います。その洪水などに、まきこまれない、ひがいにあ

わないためにもひごろから、ハザードマップを見て確にんしたり、ひなんグッズをよういしておくといいのかなと思いました。

私たちに水とは、必要不可欠なものだと思います。このゴールデンウィーク中にカヌーやサップを体験したからこそ分かったことなのかなと思います。水があることは、あたりまえではないし、自分たちでも、あたり前と思っではいけないと感じました。自分だけではなく、日本中のみんな、一人一人が水を一滴も無駄にせず、大切にしていこう気をつけなければならぬと思います。私たちは、水があるからこそにいるし、水がなければ産まれることもできないから、生きることでもできない。私たち、一人一人が水のためにできることは、節水をすることです。もっとたぐさん自分たちができることを見つけていきましょう。

【入選】

水にありがとう

熊本県 氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校 一年 橋本 実旺

「ジャーツ。」

じゃ口をひねると勢いよく水が出てくる。私は、毎朝、起きるとすぐに顔を洗う。大体十五秒ほど水を使う。

しかし、去年の二月九日、私の十一回目の誕生日の朝はちがっていた。朝、じゃぐちをひねるといつも聞こえる「ジャーツ。」という音が水道から聞こえなかった。代わりに聞こえてきたのは、「チョロ。ポタツ。」という小さくて勢いのない音だった。「故障？」私はとまどった。すると母からその日は、断水で水が出ないことを伝えられた。ニュースによると氷川ダムにある導水管から水がもれ、氷川町のほぼ全域と八代市の一部地域で断水になったのだった。家のろう下には水道の代わりにポリタンクにためた水とペットボトルの水が準備された。いつもなら自由に使える水がこの日は使えなかった。

ふ段は、水が出ることが当たり前だと思っていたが、水の出ない生活をしてみると、とても大変だった。ポリタンクから少しずつ水を出して顔を洗い、歯磨きをした。トイレは、浴そうにためた水をバケツですくい自力で流した。朝ごはんの食器は洗い物を減らすため、紙皿と紙コップ、割り箸を使った。学校に行くと飲み水のペットボトルが配布された。クラスのみんなは、断水についての話を困ったように話していた。帰宅するとポリタンクのチョロチョロツとした水で手を洗い飲料水でうがいをした。夕飯の前になり町の温泉に行って入浴を済ませた。その後夕飯を済ませて誕生日ケーキを食べられたのは午後九時を過ぎていた。そしてまた少ない水で歯を磨きトイレを済ませて手を洗い、いつもよりおそめに就寝した。翌日の午前二時に断水は解消されたが、私の十一才の誕生日は水のことをよく考える一日となった。

このことを経験して私の中での水への意識が大きく変化した。それまでは、じゃ口をひねるとききれいな水が出て自由に使えることが当たり前

だと思っていたが、そのように水を使える生活は貴重だということを考えさせられた。そして顔も知らないだれかが昼と夜の区別なく水の管理をしていてくれるおかげで、私たちは安全な水のある生活を送れている。ユニセフによると、世界人口の半数以上が水道を使えるが六億六千三百万人の人々が安全な水を手に入れない生活を送っている。よごれた水が原因で毎日八百人以上の子供の命が失われている。きれいな水が自由に使えることは世界では当たり前ではない。私は、安全な水を使えることに感謝し、また、限りある安全な水を無駄にしないように日々心がけたい。

【入選】

循環している水

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 絹川 優渚

これを読んでいる方、空は好きですか。私は、大好きです。気象のことが大好きです。毎日、雲を見て今後の天気を考えてみたり、夜、星空を見たりします。私の好きな空に浮かぶたくさんの雲は、水がないと発生しません。海水が太陽熱によって蒸発して、それが上昇すると気温が下がるので、水が集まって雲ができ、雨を降らせるのです。つまり、海と空は密接な関係にあります。これは「水循環の一部です。一部ということは、まだまだ続きがあります。私は、今回「水循環」について調べ、自分なりに考えました。

私は、漁師の方が、植林をするというニュースを聞いたことがあり、また、教科書で習ったことがあります。私は、その理由を大まかに覚えていました。「栄養分が、川によって海に流れて、それをプランクトンが食べ、それを魚が食べるので、魚を取る漁師の方が植林をする」と。つまり、海と川、川と山も密接に関わっています。だんだん「水循環」について、興味を持つてきたのではないのでしょうか。

次は、空についてです。冒頭にも説明したように、雲は、水でできています。そして、雨や雪が降ります。時には、集中豪雨や豪雪を引き起こします。豪雨によって、川が氾濫し、周辺の地域が冠水するという事態になってしまふ。実際に、熊本県では令和二年七月に豪雨災害がありました。しかし「水循環」の中で、空という存在は欠かせないものです。だから、事前に、知識をつけておいたり、避難する際に必要なものを用意したりして、命を守る必要があると、私は思います。

また、もちろん私たちにも、水との関係が深く、深くあります。まず、飲み水として必要不可欠です。しかし、私たちがすぐに使うことのできる水は、地球上の水の約〇・〇一パーセントしかありません。その分、私は身近なところでの水の使い方を見直していくと良いと思います。シャワーや歯磨きの時に、使わない時は水を止めるなど、できることから

考えていきたいと思っています。次に、農業です。水は、植物が成長することにも欠かせません。例えば、稲を育てる田、山の斜面に位置している棚田、畑など、私たちの食料を育てるためにも、水が必要です。また、山の中には、地下水もあり、様々な所で使用しています。熊本県は地下水がきれいな場所として有名で、水道水もとてもおいしいです。

「水循環」は、空、山・地表、川、海があるからこそ成り立っているものです。例えば、植物がなくなってしまう、私たちの生活にも、影響を与えます。また、魚が取れなくなってしまう、私たちの生活にも、影響を与えます。また、植物の根が張らないので、土砂崩れが起こるようになってしまい、川に濁った水が流れる可能性もあります。どれか一つでも欠けてしまったら、自然界だけでなく、地球上にいる私たちの生活が大きく変わってしまいます。私は、一つ一つの自然を大切にしなければ「水循環」という自然の大きなシステムは崩れてしまうと気づきました。だから、私はこれから次のことを意識して、水を大切にしていきたいと思っています。

それは、水はとても貴重なものであると感じ、生活していくということとです。日本、特に熊本県は水がとてもきれいな所です。水も容易に手に入ります。しかし、異常気象などにより、水不足になっている地域も世界にはあります。だからこそ、水という資源を大切に使うことが大切だと感じます。例えば、食器を洗う時に、事前に水をためておいて、洗う回数を減らすということなど、水資源を守るために身近なところから実行していきたいです。

これから、水資源、水循環、そして自然という大きなものを大切に守れるように、水と上手に関わり合って生活していきたいです。

【入選】

水への感謝

生まれた時から私たちの周りに存在している不思議な物質の一つ、水。蛇口をひねればいつでも出てくるし、川では流れ、海には膨大な量が存在し、空に浮かんでは空から降ってきたりもする。目に見えてこんなに世界をぐるぐる回り繋がっているものなんかそう他にない。

そんな水に私はとても感謝している。なぜなら私が今住んでいる日本、特に今いる熊本では水道から出る水が美味しく飲めるのだ。「蛇口をひねればミネラルウォーター」これは熊本市役所前の水飲み場に設置されている看板の文言だ。

元々、日本の水道水は水道法で厳しい基準が設けられて、安全に飲めるようになっていたが、熊本の水道は阿蘇の綺麗な地下水を原料に使っている。消毒や殺菌が他の地域に比べて少なく済んでいる。それが熊本の水が美味しい理由らしい。水のペットボトルの裏を見る機会があれば見てほしい。そこには原産地が熊本になっているものもある。

私は父の転勤と両親の実家を含め、これまで5つの都市で生活をしたことがある。そこで水道水を全く飲まなかった訳ではないが、飲料水はコンビニやスーパーで買ってくるものという感覚だった。毎日水道水を気軽に飲める熊本での暮らしは本当に快適だ。私の両親はそれがとても気に入って、今回の転勤でやってきた熊本に家を買ってしまったほどだ。そう考えると雨が降るのも悪くない。

この世のあらゆる情報が手に入るこの時代であっても、こんな風に全ての国で安心して水が飲めるわけではない。スマートフォン保有率は全世界人口の半分の四十億人を超えているのにも関わらず、全世界で安心して水道水が飲めるのは、二十カ国にも満たない。

小学生の頃に父と旅行に行った際、父からペットボトル以外の飲み物は絶対に飲んではいけないと教えられた記憶がある。日本の清潔な水で育った子供が飲むと腹痛で病院に運ばれることが高確率で起こるらしい。

熊本県 真和中学校 二年 森北 頼斗

そもそも、海外では水道水は飲むものではないという、日本との常識の違いに驚いた。同時に日本に生まれて良かったと感謝した。また、海外のスーパーの水には、硬水、軟水などの含有ミネラルの違いがあり、種類が多すぎて水を買うのも一苦労だった。間違えて買ってしまった硬水はしょっぱくて苦手だった。

私は運良くこの時代の日本に生まれ、この土地に住んでいるだけで、水の恩恵に預かっている。これまで水道を完備するために尽くしてくれた人、水を作るための自然を保持してくれた人にも感謝をしたいと思います。

毎日、学校に行ったり忙しくしていると、水が美味しく飲めることについての関心が薄くなったりすることもありますが、改めていつもそばにある水に感謝を伝えたい。私たちが水のためにやれることがあれば是非やってみようと思う。まずは、水を出しっぱなしにしない、ゴミはきちんと分別する。毎日の環境への小さな積み重ねが、これからの美味しい水を作るのだ。

【入選】

お風呂に浸かるという事

熊本県 真和中学校 二年 山本 智穂

熊本地震から八年が経った。僕は当時幼稚園に通っていた。大きな地震後は親戚の家で一週間くらい過ごした。飲み水には困らなかったが、お風呂は入れないというのが辛かった。どんなに大きい家でも、断水が続いていた。寒いわけじゃない。けれど、身体を綺麗にしたかった。被災してお風呂に入るのは、かなり難しかった。けれど、おじさんが一時間以上かけて温泉に連れて行ってくれた。地震とは関係ないような全く何も起きていない町だった。お店も温泉も開いていた。僕は、その時入った温泉の事はよく覚えていない。けれど、帰り道、皆で楽しく話したりしたことは覚えている。身体もすっきりしたが、心がすっきりしたのだと思う。大人も子供も同じようにお風呂に入れないだけで、ものすごくストレスを感じていたのだと思った。ただただ、湯舟に浸かって癒されたかった。地震前と同じようにお風呂に浸かれた事が、少し日常を取り戻した感覚にでもなったのかもしれない。

その日から、食事より、お風呂が大切になった。断水が続く中で、家族と色んな温泉へ行った。家族湯や大浴場に連れて行ってもらった。道はまだ通れないところばかりだったが、ドライブは楽しかった。真っ暗の中で揺れる夜だから明るい時間にお風呂に入った。明るい時間に家族とたくさん時間を過ごした。家において同じニュースを観るのも辛かったが、この時からほとんどテレビを観ないで済んだ。

しかし、嫌な事も続いた。僕の曾祖父は地震のあと、病気になった。新しい家が完成する頃にはベッドで寝たきりになってしまった。曾祖父は毎日毎日、家族にお風呂に入りたいと言っていた。僕の母がまだ曾祖父が立てる頃、お湯を張っていないお風呂場に連れて行って、バスタブの中に入れた。それが、最後だった。母は、僕に言った。「お風呂に入る事は生きるときに、とっても大切な事かもしれないね。」

能登地震のニュースで大分の温泉が運ばれて利用している被災者の人

達を観て、曾祖父の事を思い出した。入浴は、心を癒すための大切な習慣なのだと思う。被災して、家を失っても生きて行かねばならない、強くありたいと思う人達が、少しの時間だけでも、一人の人間として自分を取り戻すという感じがした。自分を取り戻した時、また、自分以外の誰かを思いやる事ができると思う。曾祖父は母に浴槽に連れて行ってもらった後、犬のラッキーの頭を、目を瞑ったまま撫でていた。苦しかったはずだ。けれども、笑った顔で撫でていた。少しだけ病気の顔がいつものじいちゃんになった。

世の中には、忙しくてシャワーだけで終わるという人も多いと思うが、僕は必ず、湯舟につかる。時間があれば一時間入っている事もある。僕は嫌な事があってもお風呂で自分を毎日取り戻している。全部が癒されるわけではない。でも、学校や家や友達と過ごす事が大切だからこそ、自分を一番大切にするべきと思う。

日本は温泉だらけで、ありがたい。どの家にもお風呂がある。これもありがたい。毎日ゆっくり自分を取り戻す時間も、家族が作ってくれている。誰にも邪魔されないお風呂の時間をいつもありがとう。

【入選】

水資源と私たちの未来

熊本県 真和中学校 二年 野村 桃花

「水は限りある資源なのです。」

その言葉で私は今まで当たり前のように使っていた「水」という資源について少しずつ考え始めた。人や動物が生きていくためにはなくてはならない大切な資源であり、その量には限りがある。なくてはならない「水」という資源が今地球から少しずつ減少していつていくことは、私たちがこれから生きていく上で絶対に目を背けることのできない重要な問題だ。

私が水について考えるようになったのは、中学校に入ってからだ。中学校では美術での水のポスターの制作、初めての水の作文コンクールなど学校の学習を通して水について考えることが多くなった。その学習を進めていくうちに水が限りある資源だという事を深く感じた。私は今まで水の豊富な熊本で生まれ育った中で飲料水、お風呂、料理など様々な場面で当たり前のように沢山の水を使用してきた。ゆえに水に困ったことがあまりなく、水が限りある資源だということがなかなか実感できずにいた。そのため、私は水が限りある資源だということを確かめるために家に帰ってインターネットを使い調べてみた。すると、二〇二五年までにこの状況が続けば世界人口の半数は水不足にさらされることになるという驚くべきことがわかった。水不足が起きている実感はまったくなかったため、この話からこんなに早く世界から飲料水は無くなってしまうと考えると私たちが私たち自身の未来を守るために何かアクションを起こさなければならぬと考えた。しかし、熊本では様々な要因による一部地下水質の悪化や、菊陽町に建設された台湾の半導体メーカーTSMCの進出に伴う地下水の維持などによって熊本の地下水についての問題は増えていく一方だ。そこで、次は熊本市が行っている水問題に対する対策についても調べてみた。熊本市は木を植えて森を守ったり、地下水の汚れをきれいにする研究をしたり、地下に水を浸透させるために

様々な努力をしたりなどと私が思っていた以上に熊本市は美しい水を守るために努力していることがわかった。自分で初めて水について深く調べて考えることができ、改めて私たちも熊本の水を守っていく努力をしなければならぬと思えた。私たちができることは節水を心がけることだけなのだろうか、他に何かできることはないかと考えた。そんなことを考えていると、小学校の頃上下水処理場に見学に行つて聞いた話を思い出した。それは

「水の汚染を防ぐためには、料理などに使用した油はそのまま捨てるのではなくキッチンペーパーなどで吸い取って捨てましょう。」

という言葉だ。節水や油の使用後の処理方法など私たちの小さな努力の積み重ねによって水を守ることができると思い出した。こうした私たちの自身の行動が、水を守る活動に貢献しているのだと思うと嬉しい気持ちにもなれた。どんなに小さな心がけでも、一人一人が行動に移していくことで積み重なり、明るい未来が作れるのではないか。この作文を通じて、一人でも多くの人に水資源の大切さがわかってもらえればと思う。

今回の学習はさらに水に対する思い入れを強くし、未来の水は私たちが守っていくのだという意識をくれるきっかけとなった。

【入選】

真つ直ぐ前へ

熊本県 真和中学校 二年 清水 皐樹

僕の心の原風景、そこには水がある。田んぼいっぱい水がみなぎり、映る大空が風に吹かれて時折揺れ、きらきら光る。水は従来する生き物を含め多くの命を育み、豊かな実りの源となる。桃源郷のようなこの風景は、町を離れた今も僕の心の中に美しく広がっている。そして僕を支えている。さらにもう一つ、心に刻まれた水。これもまた僕を支え、行く先を照らしている。

僕が六歳になる直前、熊本は大きな地震に見舞われた。僕の住む町はそう揺れたほうではなかったが、とにかく怖くて不安だった。そして被害の大きい地域に住む祖父母のことが気がかりだった。直後に時間をかけて様子を見に行くと、コンクリートの地面や家の壁には大きな亀裂が入っていた。心底ぞっとした。幸い住み続けることはできたが、家の中は大型の家具や物が散乱していた。近隣の家も被害大きく、皆が不安そうに家から出てきて状況を語り合っていた。取りあえずの状況を把握し、一旦自宅へ戻った僕たち。だがその後には本震が来た。それで祖父母の住む地域は断水となった。今なら水は生活全般に関わるものだとわかる。だがあの時、僕は祖父母の喉が渇くことを心配した。その少し前、僕は熱中症で高熱が出てしまい、とにかく人体には水分が必要だと教えられていたからだ。たまらず電話をかけた僕は、井戸水が機能していることを知った。僕が小さな頃から水遊びに使い、草木にまき、野菜や果物を冷やしてきた水だった。あの水が祖父母の命を守る。安堵とともに自然への感謝が胸に広がった。

数日後、祖父母を訪ねると井戸は近隣の人達に開放されていた。容器を携えて入れ替わり立ち替わり汲みに来る人達。まだ大変な状況の中、大人たちの声が少し明るくなり、時に笑い声まで聞こえていたことを覚えていた。被災後の片付けに追われる方や重い物が持てない高齢の方、車のない方がいつでもすぐに汲めると特に喜んでいたことを僕は後に祖

父母から聞いた。あの時、全国からの給水支援もあって熊本は救われた。大規模な助けがなかったら、多くの人がとりあえずの生活にも困ったし、やっぱり皆、喉が渇いたのではないかと思う。だから本当に心から感謝している。ただ、僕は同時に思う。その公助だけでなく、きつとあの日あの時、井戸水を分かち合い、情報を交換したり励まし合ったりしたことに、とても大きな意味があったと。

祖父母宅の井戸水は毎年、梅雨前に水量が減り、梅雨の後増える。でも四月の地震の後は、梅雨前にも関わらず驚くほど水が出た。飲み水にはならなくても、にがりのない水は重宝された。公助の傍らで、ごく一部にしても自助と共助が成り立ったことを僕は今でも嬉しく思っている。そしてその後、熊本の水が復旧した陰に、被災しつつ作業された方々がいたことを思い頭が下がる。どんなに不安で大変な中、コツコツと作業されたのだろうと尊敬と感謝の思いが湧き上がる。

自然の恵みがあり、人の懸命さがあってこそ、この社会は成り立ち人が笑っている。美しく豊かな自然を今以上に次世代に引き継がなければならぬこと、水に限らず世の中を支える人の思いに気づき受け止めること、自分にできることを探し、人の輪をつないで助け合うこと、どれも水に教えられた大切なことだ。僕はこれまで、恩恵を受ける側だった。助けられて生きてきた。だが、もう動き出せるのではないだろうか。気づきを、感謝を行動に変えていけるのではないか。僕は中学二年生、支える側にもきつとなれる。そのために努力ができる。

努力がいつも実るわけではないことを僕はもう、知っている。でも僕の心には、あのきらめく田んぼの風景がいつもある。苦しくて人もがっなり希望を持てると知っている。だから僕は、真つ直ぐ前へと進んでいける。

【入選】

夏のデトックスウォーター

熊本県 真和中学校 三年 柏原 昂太

「うわー、まじか」

お父さんが驚いた口調で言う。昨年の夏頃、テレビでインドについてのニュースがあった。インドで最も神聖な川となっているヤムナ川の水汚染によって健康被害が社会問題となっていた。ヤムナ川には、人々の生活用水や木浴、牛の飲み水などとして使われていた。しかし、人口が増加する中では、とても解決できないものであったようだ。

「大変なんだな」

ボソツと僕は言った。まるで人言のように。

夏終わりの土曜日、弟と一緒に自転車で行った。いつもなら、タブンタブンの量の水があるのに、今日は少なく感じた。上流からの水がチョロチョロと流れているだけだった。その川には、よく大きなペットボトルを持ってくる人がおり、いつも汲んでいたけれど、その日は、汲みづらそうに見えた。少し危機感をもってしまった。その水源は、肥後三名泉の一つで、日本名水百選にも指定されていて、今でも百二十戸の家庭の生活用水や田んぼの水などとして使われている日本最古の上水道であるためか、この水源がなくなってしまう事を考えると、少し悲しくなってしまう。

真夏の快晴の日、太陽がギラギラしており、セミの合唱が多く見かけられた。すぐ近くのおばあちゃんの家遊びに行った。

「デトックスウォーター飲む？」

急におばあちゃんが聞いてきた。

「何それ？水？」

「最近、作ってみたんだけど、どうかな？」

デトックスウォーターが何なのかも知らず、台所へ行った。そこには、ハープとレモン、ブルーベリー、パインがつまったボトルがあった。

「何これ、おいしそー」

そして、コップに注いで飲んでみた

「すごいすつきりするね！おいしい。」

思わず声に出した。

「それね、水に秘密があるんだよ。」

「高級な水なん？」

「ちがう、ちがう。ただのミネラルウォーターよ。」

驚いた。とても冷たいおいしい水。それが、いつも口になっている水だった。

「あのね、全ての食べ物には、水が必要なの。料理もおいしい食材があったとしても、水がおいしくなかったり、汚かったから、食べられないでしょう？」

おばあちゃんの言葉が心に刺さった。世界中では、水汚染などの社会問題がどれほど難しい事なんだと改めて思った。

水は、私たちの生活を支えてくれるとても重要なものであり、大切にしていかなきゃいけない、日本も水を大切にきれいに使い続けられるような習慣づけをし、未来の子どもにも届くようにしていきたい。そして、日本の水に感謝をして生きていきたい。

【入選】

生命の水

熊本県 真和中学校 一年 白濱 蘭

私は昨年の夏からメダカを6匹飼い始めました。そのメダカはご近所の方から頂いたものです。最初は六匹だったメダカは、今では三十四匹ほどになり、まるで本当のメダカの学校のようなのです。そして、飼い始めてみると、メダカが喜ぶ瞬間がだんだんと分かってきました。それは、エサをやる時と水槽の水を替えてやる時です。特に水替えの時は、最初はメダカはビックリした様子ですが、数分後には、今まで以上に元気に泳ぎ回っています。とても気持ちが良いように、なんだか疲れた後のお風呂上がりのようにさっぱりしたようすで、「ありがとう。」と、私に笑ってくれているように感じ、私もうれしい気持ちになります。私はメダカを飼い始めて、改めて水が必要で大切なのは、私達人間だけでなく、こんなに小さな生き物にも必要なものであり、生きていく上で無くてはならないものだと感じました。そして、水が必要とする一人の人間として、水について学習しようと考えています。

熊本の水はとても美味しい事で有名です。小学校でも、熊本の水は阿蘇山などの山々に降った雨が、永い年月をかけて染み込み、地下で色々な栄養分をたくわえながら地下水として湧き出していることを教わりました。熊本市内の水道水は百パーセントで、私達は天然のミネラルウォーターを毎日飲むことが出来ていますし、メダカなどの小さな生き物も喜んで暮らすことが出来ます。例えば、みかんで有名な愛媛県では、みかんジュース出る蛇口があります。それと似ていて、熊本では蛇口をひねればミネラルウォーターが出る、とても素晴らしいことだと思います。私はそんな熊本がとても好きです。

このような大切な水ですが、最近では地球の温暖化や、工業用水源の使用増加で、水不足の心配もあるようです。特に熊本は、大きな半導体の工場も出来るようで、多くの水を使用することも学びました。世界的に有額な工場が出来たことは、とても喜ばしいことなのですが、反面、

貴重な水が無くなってしまうか、という心配の気持ちもあります。

私は、少しでも大切な水を守ることが出来ればと考えています。そのためにはまず、「水の大切さ」や、「水への感謝の気持ち」、「水への愛情」です。私は、そのことを考えながら改めて、「私はいつも、水への感謝をしたことがあったのか」と思いました。例えば、運動をしたあと喉が渇いた時に、「美味しい」や、「ありがとう」と思ったことがあったかと、「感謝」、「大切さ」、「愛情」などをあまり考えていなかったんじゃないかと考えると、少し自分が恥ずかしく思えました。

水は、私達人間もふくめて、動物や植物、生命のあるものに全て必要なものです。水が無いと私達は生きていけません。世界には、水を飲むことが出来ないところもある、というニュースを聞いたことがあります。私は、毎日新鮮な水が飲める環境に生きていることを感謝して、まずは、自分に出来る節水から始めていきたいです。例えば、歯を磨く時、顔や手を洗う時、こまめに水量の調節をして、考えながら水を使っていきます。そして、水への感謝の気持ちを忘れることなく、生命の水と向き合っていきたいです。

【入選】

一日に出会う水の形

熊本県

熊本信愛女学院中学校 一年

杉本 理采子

私達は水がなければ、生きていくことができません。ふと周りを見ただけでも色々な形の水があることがわかります。今まで、意識をして過ごしたことはありませんでしたが、どのような水とふれ合うかを考えながら鹿児島旅行の一日を過ごしました。

朝、蛇口から出る水でうがいをし、顔を洗いました。この水はどこから来たのだろうと思いつながら、トイレで水を流しました。この水はどこに行くのだろう。障子を開けると、外は大雨が降っていました。そして、窓の外には、海が広がっていました。私は母と温泉に向かいました。温泉に入る前に、冷水機の水が私達ののどをうるおしてくれました。温泉では、シャワーは透明でしたが、温泉水は、茶色くにごっていました。温泉から見える海の色は温泉の色とも、シャワーの色とも異なり、これもまた不思議だと思いました。調べて見ると、泉質は塩化物泉と書いてありました。熊本で行く温泉は、色にもおもしろい異なるため、色々な泉質があるのだらうなと思いつながら、朝食会場に向かいました。朝食では、たくさん料理の水が使われていました。私は、炭酸水を飲みながら、炭酸水は自然にもあるのかなと、小さい声で言うのとそれに対して母があるよ。熊本にも。と答えてくれ、ぜひ行つてみたいと思いました。朝食会場の横には、水をはったプールがありました。

私達は、ホテルを出発しようとしたのですが、大雨で、土砂災害の危険があるということで、電車が運休しました。なので、タクシーにのることにしました。タクシーにのっていると、霧の外は真白でした。色々な形に姿を変えて、私の目の前に水がとびこんできます。その後、水族館に行きました。水槽には、海で生きる魚は海水、川で生きる魚は淡水で飼育がしてありました。それぞれにあった水の環境でなければ、魚たち

は生きることができません。水族館を出て、昼食の後に、デザートを食べに行きました。デザートは名物のかき氷を食べました。水を意識しながら食べたかき氷は、特別でした。

鹿児島を後にし、熊本駅について、新幹線口を出ると、ふん水のモニュメントが目に入りました。母が熊本は水の都といっていました。父は世界中からの熊本のきれいな水を求めて、工場をたくさん建てていて、いうことを教えてくれました。私たちがのんでいる水道水を地下水で、まかなわれています。水、これから工場が増えていき、熊本の地下水や私達を取りまく水が、だんだんよごれたり、足りなくなっていくのかな、と心配になります。

一日で出会った水の形、初めてこのように意識してみると、あまりに水にかこまりすぎていて、とてもおもしろいなと思います。私達は水をよごしたり、使いすぎたり、むだ使いをしてしまうと最終的に自分達にかえってきてしまいます。

水は私達にとって、恵みでもあり、ある時は命をうばう脅威にもなります。これからも、水を大切にし、使い方もしっかり考えていこうと思います。

【入選】

「あたりまえの水、あたりまえではない世界」 熊本県 天草市立新和中学校 二年 川本 美空

私は、今、日本に住んでいる。日本人の家庭に生まれ、育ったのも日本。日本は、海に囲まれ、南北に長い。それぞれの都道府県で気候が違いため、温かい所もあれば、景色が真つ白になるくらい寒いところもある。私の町は自然が豊かで朝は、小鳥がなき、昼は、太陽が高く上り木々が風に揺られ、夜は満点の星空が広がる綺麗な所。私は、こんな場所に「住めて良かったな」と思う。ある日私は、家の庭に咲く小さな花たちを見つけた。白や黄色で名前は知らないけどとにかくその花たちに惹かれた。そして、庭の隣にある小川でその花をまつすぐ落としてみた。綺麗に回りそして、小川に落ちる。綺麗に透き通った水の中に。

この小川の水を見てみるとふと友達が言っていた言葉を思い出した。「世界で安全に水が飲める国少ないらしいよ」と。この川の水も安全な水なのだなと思いつつその言葉には衝撃を受けた。私たちが当たり前のように飲む水、料理をする時に必ず使う水が安全ではない世界がある事にとっても驚いた。実際にインターネットで調べて見ると世界でも水道水が飲める国は少なかった。約二百という国があるのにたったの九か国だそう。アジア州の中で「日本」しか安全に水道水が飲める国はなかった。自然がきれいな国でさえも入っていないかった。また、海外ではきれいな水が日本では考えられない値段で売られている所もあった。中水道水が利用できる国もあった。私は、水の大切さや当たり前である水のありがたさや、日本のありがたさを知った。そしてインターネットで調べていくうちにこんな言葉を見つけた「世界で二十一億人が安全な水を手出来ず」という言葉だった。世界の人口は八十億人というのに約二十五%の人が安全な水がなくて困っているのだと知った。「水」という当たり前の存在があたりまえではない事と、世界に「水」が無く苦しんでいる人がいるのだと。悲しくて、もっと水を大切にしなければいけないと思った。私自身も水というありがたさに中途半端で気付いていなかった

のかもしれない、私は当たり前の価値を大切にしていなかった。世界の四分の一の人が「水」を求めているというのに水を沢山使う自分が、申し訳なかった。少しでも「水」の使う量を減らし、世界の人の命が少しでも助かるように日頃から意識して生活していきたい。「当たり前」という言葉にとらえず、当たり前を当たり前にならず、これから生きていこうと思った。また、その水で少しでも人の命を助けて、世界中の人々が笑い合って毎日が送れるように自分自身も気を付けていきたいと思う。その「水」で世界の人を命を助けられますように。

【入選】

水の変身

熊本県 氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校 一年 香西 未宙

「水は良くも、悪くも色々な形に変身する」いままでの経験から私はそう思った。

水というのは私達、生き物が生きていく上でかかせない大切な資源だ。人の体の約六割は水でできているほどだ。私は小学四年生ごろに断水を二度経験している。もちろん水道から水は出ない、トイレも使えない、風呂にも入れない。思った以上に不便でとても大変だったことを三年たった今も覚えている。そしてこのとき改めて水の大切さに気づいた。水があるおかげで泳ぐこともできる。私は三才から水泳を習っている。水泳を続けるうちに、いろいろな泳ぎ方を知ったり、速くなったりして泳ぐことが楽しくなった。プールで、海で、川で泳ぐのはどれも気持ちよくて楽しい。でも水がきれいだともっと楽しい。川、海がきれいであり続けるためには周辺のごみを拾ったり、プラスチックの使用料を減らしたりすることをみんなが気づいて行動することが大切だと思う。数年前に私は海の周りのごみを拾うボランティア活動に参加した。海の周りのごみを拾うという活動だったが、みんなで楽しめた一日になった。これからそのような活動があるときは参加したい。

熊本県は地下水が豊富で有名だ。家でも水道の水をそのまま飲むことができる。ふだんは水のおいしさやきれいさをあまり感じず、当たり前だと思っていたけれど、都会に住んでいるおばあちゃんの家では水道水を飲まず、水を購入している。おばあちゃんは水を飲むことに抵抗を感じると言っていた。そして今まで感じなかった水道水を飲めるありがたさを感じた。他国と比べると日本の水はそれでもきれいな方だ。アフガニスタンなどの国では家の近くに水道がなく川まで行き水をくむことを知った。ユニセフの活動を知らせる広告には「川の水はきたなく、おなかをこわすこともある」とかかれていた。ユニセフに募金すると百円で四から五リットルの水を浄化できる浄水剤、百三十一個分になるととか

れている。私、自分の国だけが水がきれい、おいしいのではなく世界中のどこの人でもきれいな、おいしい水を飲んでもらいたい。だからユニセフに募金しようと思った。

水は生きていく上でかかせないものでもあり、人を楽しませてくれる。水について考えたことでそのことに気づくことができた。これからはもっと積極的にボランティア活動などに参加したいと思った。おいしい水を飲んだり、きれいな水で泳いだり、私の人生は水と共にある。

【入選】

世界の水について

熊本県 氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校 一年 窪田 晃雅

「おいしい。」

弟と飲む家の水道水から出る水は、めっちゃうまかった。「水道の水はおいしいくない」と思う人もいるかもしれませんが、それにはちよつとした理由があるのです。

今日は、5月4日ゴールデンウィークだ。野球などでいそがしいけどこれがふつうの休日だ。

ある日、先ばいが、水の話をしていた。「こないだニュースでSDGsの6の安全な水とトイレを世界中にという取り組みをしてらしいよ」という話をしていた。家にかえるとSDGsのことを思い出した。調べて見るとSDGsには、17の目標があることが分かったその中の6番目が先ばいが話していたことだとすぐわかった。サイトを見ると世界には、きれいな水を飲めない人が約二十億人の人がいる。きれいじゃない水を飲んでる人が、このよにたくさんいることが分かりました。ほかにも、安全に管理されたトイレを使えない人は、約三十六億人もの人が使えない。だけど、日本みたいにじやぐちをひねるとききれいな水出る、また、家や公園、公共しせつなどにきれいなトイレが整理されているといったことが当たり前ではない国があります。

じゃあ、安全な水とトイレを使えない人は、どのように生活しているのでしょうか？

安全な水を使うことのできない。また、水道管などの設備がない地域では、どのようにして飲み水を用意しているのか調べたら、近くの川や湖の水を、そのまま飲んでしまうことが当たり前になっていることが、少なくありません。しかし、その水には、はいせつぶつや家てい、工場などから捨てられた水もふくまれていることがあり、飲んでしまうと人にながいがあるということになります。そのきれいじゃない水を飲んで、毎年、たくさんの命がなくなっています。水を持つてくるのは、子ども

や女性が多い。水をくみに行つてくるため、学校に行けなかったり、仕事に行けず、しゆうにゆうが入らないといった問題が起きています。また、せいけつなトイレを使えない地域では、トイレがふえいせいな上や、がいにあるため、プライバシーの問題や、トイレが遠く、電気がついていない所では、子供や女性がぼうりよくにあうといったことがあります。このような地域に、水道管などの設備が必要なんだと思いました。そのため、私たちは、節水を心がけるなど、日常での生活を見直すことが重要です。

【入選】

水のおそろしさ

熊本県 八代市立第八中学校 一年 芳崎 美空

みなさんは、水のおそろしさという言葉で何を思いうかべるだろうか。水は、生きるために必要とは限らないのだ。

私たちにとって水は生活にかかせないものである。お風呂やトイレ、洗たくなど日常生活で使われているほか、農業や工業など水は私たちの暮らしを支えているのだ。また、飲み物が無いと熱中症や脱水症状、時には、死にいたるなど水が無いと人間は生きていけないのだ。このように、水は私たちにとってなくてはならないものなのだ。でも、その反面時には人の命をうばうものになるのだ。

二〇二〇年、七月四日、球磨川で大雨災害がおこった。人吉では、市中心部をながれる一級河川・球磨川がはんらんしたのだ。その日、朝起きてテレビを見ると、しょうげきをうけた。町中が水であふれ、家は屋根しか見えておらず、車は水で流され、橋は崩落していたのだ。ほかにも、行方不明者、重軽傷者死亡者の報道がテレビからながされていた。その時、私はこわい、という思いがいつぱいでも考えられずテレビを見つめていた。坂本町でも被害がひどかったらしく、親せきの叔母やお母さんの友達から、その日の話を聞いたのだ。話によると、一階で寝ていたところ部屋中に水があふれてきたというのだ。急いで二階へ避難したという。時間が過ぎるとともに、二階への階段そばまで水はあふれてきていたのだ。その時、叔母はバニックになり、死を覚悟したというのだ。水は、みるみるうちに二階の部屋まであふれ、窓から屋根へ避難したという。そこから、何時間がたったかわからないが、救助隊の人が助けにきたそうだ。しばらく避難生活が続き、落ち着いたころ家を見にくくと、ものはあった場所になく、部屋はあれ、部屋中どろだらけで住めるような状態ではなかったのだ。町中は、建て物や家は全くくずされ、何も残っていなかったのだ。家をたてかえるのに一年くらいかかり、その間は、親せきの家に住んでいたときいた。叔母は、とてもこわくて、

大変だったといっていた。そして、家や物はなくなっただけで自分や家族の命が助かったことに、とても感謝をしていたのだ。

そこで私は、はんらんが起こりやすい原因と、その時自分や家族の命を守るためにどういう行動をしたほうがいいのかを調べたのだ。まず、はんらんが起こりやすい原因とは、大雨や雪解けによって川の水の量が増え水かさ上がり始めるのだ。堤防いつぱいまで水が増え、土でできた堤防に水の圧がかかるのだ。そして次に、水が増え、水の力に堤防がたえなくなると堤防の一部が崩れはじめるのだ。堤防の崩れた場所をとおって、勢いよく水が流れ出し、家にうばいかるのだ。堤防から流れ出した水は、場所によって家を破壊、流出したり、車を浮き上がらせたりしながら広がり、水が浸水して来るとすぐ水かさが高くなり、歩行が困難になるのだ。次に、命を守るための行動とは、高いところへ避難するなど安全なところへ移動するのが大切なのだ。被害の状況や今後の気象情報を収集するのも大切なのだ。他にも、避難時は隣近所に声をかけて集団で行動するなど、命を守るための行動はたくさんあるのだ。

このように、水は、私たちにとってとても大切で生活に必要なものもある、人の命をうばう水もあるということなのだ。世界のみんなが水害などの水のおそろしさを知って、その時、どういう行動をしたらいいのかなどを少しでも頭の中にいれてほしいのだ。

【入選】

「今さらだけど…」

熊本県

八代市立第八中学校

三年

春崎

菜々子

みなさんは、どのようにしてこの世に生まれてきただろうか。みなさんが知っているように、私たちは母のお腹から生まれてきた。そして、この世に誕生した後は、親に育ててもらって生きていく。だが、私たちが今日を当たり前のように生きていられるのは、親以外にもう一つの「存在」があるからだ。それは『水』である。

私たちは「生まれてくる前」も「生まれてきた後」も水に支えられてきた。「生まれてくる前」は羊水という水に支えられてきた。羊水とは、妊娠中のお母さんの子宮内を満たしている液体のことである。羊水には子宮内の環境を整えたり、お腹の中にいる赤ちゃんを衝撃から守る役割がある。だから羊水は、出産までの間に、お腹の中で赤ちゃんが元気に成長していくために欠かせないものとなっている。羊水に支えられながらこの世に誕生した我々は、この先もずっと『水』に支えられて生きていくことになる。水を飲むことができなかったら、人間は三日以内に死んでしまう。だから水は、私たちの命を繋ぐ「命綱」とも言えるだろう。これは人間に限ることではなく、動物や植物にとっても同じことである。水を飲んだり吸収することによって動物と植物は生きており、その動物や植物を食べることによって、私たちも生きている。地球上のほとんどの生物にとって、水は『第二の母』のような存在だ。

しかし、そんな『第二の母』である水を、私たち人間が自分たちの手で汚してしまっていることに気が付いたのは、ほんの数年前のことである。私が住んでいる宮地という地域では、毎年「みやじ学」という活動が行われている。「みやじ学」とは、私の母校の五・六年生と本校の一年生が歴史、人権、自然の三つのテーマのもと、6つのコースに分かれて地域について学んでいく活動のことである。私は小学六年生の時のみやじ学で、3つのテーマから「自然」を選び、コースを「環境調査」地域の河川調査」に選択した。このコースは、私が住む地域に流れている

「球磨川」と呼ばれる川の上流・中流・下流の3つの地点に分かれて水質の調査を行うものである。私が住んでいる地域は上流だが、はじめに下流の調査を行うので、車に乗り込み、二十分ほど移動した。「川の近くに着いた。」と先生が言うので、私たち児童は車を降りて川に向かった。そして川に着いた途端、私たちは顔をしかめた。川の色は深い緑、臭いをかいでみるとひどい悪臭がした。私たちがいつも見ている上流の川は透き通っていて臭いもなく、そのまま飲めるほどだったので、同じ川だとは到底思えなかった。「どうして上流と下流でこんなに違うのか。」と先生に聞いてみたところ、「下流に行くにつれて生活排水や工場・田畑からの排水の流入が多くなるからだ。」と教えられました。私はその時、一体自分がどれほどの水を汚してきたのかを目の当たりにした。それと同時に、「この状況を早く撤回しなければならぬ。」という強い決意をあらわにした。

私たち人間は、毎日に命を与えながら、日々の生活を送っている。水を飲むことで命を繋ぐことができ、人生を歩んでいくことができる。そんな『第二の母』のような存在である水に対して「当たり前のような存在だ。」と感じて、私たち人間は水への感謝を忘れてしまっているのうえ、私たちは日々生活していく中で水に様々な悪影響を与えているのが現状である。「自分は知らない間に『親不孝』を繰り返していたんだ。」と今さらながらに気付く、私は今までの自分の水に対する行動を自省した。もちろん反省するだけでは今の状況は改善しない。だから私たちは、今までの水に対する行動を見つめ直し、実践していく必要がある。今さらではあるが、私たちが水に『親孝行』をするときが来たのだ。

【入選】

関係ないんじゃない

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 西坂 向日葵

「もし全人類が消滅すれば、この世界は一万年前の豊かな平衡状態に戻り再生するだろう。」

「ありの行列」の筆者であるウイルソン学者が残した言葉だ。この言葉を聞いて、私は人間が自然のバランスを崩しているのだという意味で受け止めた。私たち人間が存在する限り、それが元通りになることは難しいのである。では、私たちには何ができるのだろうか。

皆さんは「太平洋ゴミベルト」をご存知だろうか。それは、北太平洋の中央にある海洋ゴミが特に集まる地域のことを指している。私は小学生の時、そこについての動画を授業で視聴したことがある。動画は言っていた。「太平洋ゴミベルトの面積は、日本の陸地面積の約五倍もあります——」

衝撃だった。そんなにも多くなるのか、と当時思った記憶がある。先程その量を調べたところ、一兆八千億個のプラスチックがある想定だという。プラスチックの年間総生産量は毎年三億二千万トン以上である。この大半が長い道を経て太平洋ゴミベルトへとたどり着く。専門家は言う。太平洋ゴミベルトは年々拡大している、と。二〇四〇年までに何か各国政府が対策しない限りプラスチックが海に流れこむ速度は二・六倍になる、と。その動画を観て、普段私が出している何気ないゴミが、海の、地球の命を奪うことに貢献する可能性があるのだと、私に「関係ない」んじゃないんだということを、生まれて初めて痛感した。

何気ないゴミ。例えば、レジ袋。レジ袋有料化が始まった当時、私はきちんとマイバッグを持ち歩いてた。だが、今はどうだろうか。「もうめんどろっからいいや、安いいし。」と割り切り、ゴミ袋を買っていることが多い気がする。とても有名な話だが、海に住む動物はゴミ袋を間違えて食べ、そして死んでしまうことがある。ウミガメにしても、クジラにしても、何も悪いことはしていない。ただいつもと変わらぬ日常を生

ていただけなのだ。しかし、それは人間という動物が出した小さなゴミのせいで崩れてしまう。私たちは無意識のうちに何の罪も犯していない動物たちを殺している。ウミガメ一匹と、ゴミ袋をもらうときの「めんどくさい」という感情。私たちは、どちらを優先すべきなのだろうか。海の未来は、どうなるのだろうか。

自分一人が何かをやったところで、世界の水が急激にきれいになるわけではないし、太平洋ゴミベルトが跡形もなくなる、というわけでもない。

「自分の行動なんて海洋汚染と関係ないよ。」心の中のどこかで、そう思っている人も多いかもしれない。私はあの動画をきっかけに、考えるようになった。本当に、そうなのだろうか。本当に、私は地球を変えられないのだろうか。

ぜひ、自分にできることはないのか一緒に考えてほしい。それで思いついたのが、マイバッグを持ち歩くとか、紙ストローをもらうだとかそんなささいなことでもいい。そして一日でもいい。一時間でもいい。とりあえず実践してみないだろうか？できることに精一杯取り組んでみないだろうか？

私はやってやろうではないか、と思っている。自分のちっぽけな行動が、いつかきつと何かを変えるだろうと思っている。それは、続けると大きな影響を与えるものとなり、未来への一つのピースになると信じている。

人々が、そしてわたしたちが、そんな感じでこれからの地球を造っていけばいいと思う。わたしたちは決して、海洋汚染と、地球と、関係ないんじゃない。

【入選】

無限の価値

熊本県 真和中学校 一年 小澤 桃

「ああ、疲れたあ！」

体育後、濁点でもつきそうな勢いで、私は叫ぶ。真夏、相変わらず照り続けることをやめない太陽のせいで渴いた喉を潤すため、水筒に口をつける。

「あれ？」

相当喉が喝いていたのか、入っていた麦茶を無意識のうちに飲み干す。それでもまだ熱い体を冷やすため、仕方なく水道へ向かう。

「んー、美味しい！」

思わずそう叫ぶ。でも、ふと疑問に思う。普段、ごく当たり前に飲んでいる水だが、そんな水が今、世界中で不足しているなど、水が身近にありすぎて、どうにも実感が湧かない。そもそもこの「水の惑星」なんて言われている地球の水に限りなんてあるのか。私はポタポタと蛇口から零れる水滴を見つめながら思う。そりや物には限りがあることは知っている。今はたくさんあっても、いつかはなくなってしまう。水だって、この命だって。そう考えるととても重く感じてしまう。それでも、どこか他人事だ。私はさつきよりもゆつくりと零れていく水滴を見つめながら、この消化しきれないモヤモヤとした気持ちを強引に胸の中に押し込んだ。

数日後、夏休みなので、家族で天草へ旅行へ行った。私は熊本の中でも都会の方なので、生の海を近くで見る機会なんて滅多になかったので興奮していた。

一通り海を満喫した後、すっかりオレンジ色に輝いている海を見つめながら、ふとあの時のことを思い出す。渚へと打ち寄せる波の音、かすかに香る塩の匂い、そして、終わりの見えない水平線。生で見ると改め、どこまでも続く水平線に無限を感じてしまう。

どうも海というのは不思議で、こんなにも広い物を見ると、考え

も段々スケールの大きいものになっていく。世界というのはとても広い。そのため、文化の違いだけでなく時差や、天気の違いまでもが生じてしまう。それでも、この海の綺麗さだけは変わらないだろう。海は、誰の物でもないから、自然以外に干渉できない。それでも、ポイ捨てをする不届き者はいなくならないわけで。事実、それが環境問題へと繋がっている。環境問題だけじゃない。自然災害だってある。どれだけ自分がゴミを持ち帰ったって、誰かが一つ捨てれば、その行動は無意味と化する。

ゴミ一つない綺麗な海水を掬ってみる。掬って溢れて零れていく。海水がたくさんあるからと言って、飲料水も同じくらいあると言ったらそうではない。事実、海水の中で私たちが飲める水は約二割だと言われている。そう考えるととても少なく感じてしまう。この広い広い海の約二割しか飲むことができないなど、あまりにも酷だ。

熊本は水に恵まれている。それ故に、無限と勘違いし、無駄遣いしてしまう。私だってその一人だと思う。この雄大な海の貴重な二割を、私たちは勘違いしていたのかもしれない。

さつきも考えたように、ゴミを持ち帰った所で、一人ゴミを捨てればその行動は無意味と化する。八十人が節水しても、二十人が無駄遣いすれば、その行動もきつと無意味だ。私は無意味だとわかっていることに希望を深すなどそんな地道なこととはしない。水だっていつかはなくなる、いつかはなくなってしまうと決まっているのならば、それはきつと、もうどうしようもない。ならば、残る水を、どのくらい有意義に使うかだ。無駄に遣うなど恵まれていない人々や、水に失礼だ。大切なのは、水にどのような「価値」を与えるかだ。最初は価値なんてないただの水。それに価値を見出すことで、一気に水のカタチが変わる。きつと、その行動が一番、価値のあることだろう。

中央審査会上位入賞作品

このほか入選した稲田侑子さん、田代優羽さんの作品については、熊本県審査会入賞作品の【水の作文大賞】8、9ページに掲載しています。

内閣総理大臣賞（最優秀賞）

田んぼの水に思いをはせる

東京都 新宿区立西早稲田中学校 にしわせた 二年

秋永 あきなが 橘香 きつか

「水」といって私が一番最初に思いつくのは田んぼの水だ。まだ、幼稚園生だった頃、東京から田んぼや畑が多い地域に引っ越した。ここでは、父に連れられて何度も田植えに行った。田植えの仕方は農家のおじさん達が教えてくれた。水路や堰を管理する土地改良区という組織のおじさんだ。

田植えが終わると、生き物採集が待っていた。毎週毎週、長靴と着替えを持って出かけて行った。おじさん達、地域の小学生と夢中になって、たも網で田んぼや水路をすくった。一緒に水路をすくった小学生とは不思議とすぐに仲良くなれた。捕った生き物を大きな桶に集めた。メダカ、ドジョウ、タモロコ、ギンブナ、スジエビ、水棲昆虫、桶に入りきらない大きなコイ、ナマズが捕れることもあった。私は、すっかり田んぼの生き物が好きになり、自分用のたも網、水槽を揃え、家族で生き物を探しに行くようになった。

稲刈りも終わり、冬が訪れた。少し寂しい思いながら田んぼを見に行った。田んぼに水はなく、稲の切り株が寂しそうに残っていた。小鳥のさえずりがかすかに聞こえたが、生き物の気配は消え、静まり返っていた。

ドジョウが隠れているかもしれないと思い、水路の小さな水たまりを、たも網ですくってみた。ワア、思わず声をあげてしまった。網の中に、わずかに2cm位の小さな鮒が三匹、ピチピチと跳ねていたからだ。小さな水たまりに身を寄せ、春を待っていたのだ。こんなに小さくても、一生懸命に生きている。そう思い、慌てて私は小鮒を水路に返した。小さな水たまりが小鮒の命をつないでいたのだ。私もまだ小さかったが、水が命を支えていることを強く感じた。

小学校二年生の時、再び東京に住むことになった。田んぼや水路からは遠く離れたが、そこでの楽しい記憶は鮮明に残っている。

田んぼの水に思いをはせ、人と水について考えてみた。一枚一枚の田んぼを潤す水は、日本人の命を育むお米を育てている。張り巡らされた水路は血管、田んぼをめぐる水は、まるで血液の様だ。人間の体では血液に肺が酸素を供給、肝臓が有害物質を分解、腎臓が老廃物を除去している。この他、心臓、胃や腸、多くの内臓が各々の役割を果たし、命を支えており、どれかが停滞すれば、病気になってしまう。

水も血液と同じだ。汚れたり、不足すれば、人間は生きていけない。田んぼの水も、雨水を蓄える森林、川、ダム、堰、水路、田んぼ、これらが、多くの人々の絶え間ない努力によって守られ、しつかり役割を果たしているからこそ守られているのだ。

田んぼや水路について、知りたくなり、インターネットで調べてみた。血管のように張り巡らされた水路の長さは、四十万km、地球十周分に相当する。優しくしてくれた土地改良区や農家のおじさん達が昔から大切に守り続けてきたものだとし、とても驚いた。

更に調べると、田んぼや水路は、お米を作る以外にも、とても貴重な役割を果たしていることが分かった。雨水を貯めて洪水を防ぐ、土砂崩れを防ぐ、川の流れを安定させる、地下水になる、水を浄化する、気温の上昇を緩和する、生物多様性を保全する、癒しや安らぎをもたらす。この多面的な機能が東京に住む私たちを含むすべての人々の生活を支えている。

田んぼの水はお米の中に蓄えられ、それを食べた人に吸収され、体が作られる。私達が安心して健康に過ごすためには、田んぼや水を守り続けなければならないと強く思った。

水のために私ができることには限界があるが、水が無駄にしない、油や汚い水を流さない、お米や野菜をおいしく食べる。最後に、田んぼや水を守る人達への感謝の心を大人になるまで持ち続けることを決意した。

農林水産大臣賞（優秀賞）

水を想い、水を守る

徳島県 鳴門教育大学附属中学校 二年 川原 もも香

私の家では、毎年、ゴールデンウィーク中に田植えをする。家族全員が大型連休となるこの大切な機会を活用して、「田植え」という共同作業を手早く、かつ愛情を込めて行う。この一大イベントは、肥料をまいて耕運機で土を耕し、あぜをきれいに整え、溝を持しての作業となる。

例年通り、五月四日が田植え日と計画し、あらかじめ近所にも周知した。苗箱を運ぶ一輪車や田植え機が道路を走行することで周辺一帯が交通渋滞とならぬよう配慮するためだ。

そして、何よりも大切な「水」がきっちり自分たちの田んぼに利水され、水の量を調節できるよう綿密な計画を立てる。

今年もまた、田植えを行う前日に、田んぼへ水を引いてくる麻名用水に沿った道を歩いた。家族でウォーキングをしながら、近所の田植えの環境が整備されているか、用水に住む生き物のようすも観察しながら確認した。

今となつては見慣れた麻名用水だが、数年前まで、その流れを川だと思ひ込んで疑わなかった。いつのことだったか、この川の名前は何なのかと母に訊ねると、それは麻名用水という飲料や防火、灌漑のために水を引いたりためたりする施設だと教えてくれた。私の住む地域は稲作に携わっている兼業農家の方が多く、我が家もその中の一軒である。そのため、この用水路には大変お世話になっているということも母は話していた。

一級河川である吉野川はとても澄んだ清流であり、それは地域人ならではの誇りだ。そして、吉野川と同じように、麻名用水から我が家の田へと引かれる水が辿る水路、そしてその水自体が、生活になくてはならない、私の大好きな「水」のひとつである。

また、水についての学習も、毎年の長期休みなどを利用して施設見学が続いている。例として、旧吉野川河口堰などのフィールドワークを通して、吉野川水系は家庭用水だけの役割を果たしているのではなく、工

業や農業用水としても重責を担う活用がされていると学べたことが挙げられる。河口堰の存在が計画的にわたしたちの暮らしに大きな役割を果たし、水の流れを調節してくれているからこそ、自分たちも「水」を当たり前前に利用できていることを実感する。

自らが田植えの手伝いをするという体験を通して、祖父母、また、曾祖父母の先代人から「水とひととの関わり」を知る。潤沢な水は、非常に長い歴史の中で、たくさんの人の関わりを経て当たり前のように存在する。

蛇口をひねると出てくる水。外の景色に目をやってもあふれている水。それは、過去の人々が残した最大の財産であると私は考える。

だが、年明けの石川県で発生した能登半島地震で被害を受け、断水により不便な生活を余儀なくされた方々を目の当たりにすると、自分たちでつくる食料も、社会全体を取り巻く良質で安全な水があつてこそのものであると痛感している。

さて、いつもこの田植えシーズンには、水に対しての敬意が深まる。「おいしいお米を食べられて、健康に生きられているのは水のおかげだ」と。だが、本当は、いついかなるときもそうやって感じていなければいけないことも分かっている。世界中に水を求めてつらい思いをしている方がいて、その方たちのためにもわたしたちが小さなことから行動を起こしていかなければならない。

「水」は、食料となり、人の命綱へと姿を変える。「水」は、商品となり、お金へと姿を変える。「水」は大雨となり災害を引き起こす。「水」は、かたちを変化させ、わたしたちの生活を支えたり、まれに、脅かしたりする。そんな「水」と共存し、ここ徳島から、自らの住む地域の「水」を地域一体となつて守り、世界にも目を向けられる広い視野とあたたかい心を抱いた「徳島人」でありたい。

経済産業大臣賞（優秀賞）

水と共に暮らす

私が暮らす砂川市。「砂川」の名前の由来は、アイヌ語の「オタ・ウシ・ナイ」からだという。「オタ」が「砂」、「ウシ」が「多い」、「ナイ」が「川」。そこから「砂川」と名付けられた。名前の通り、砂川は川と深い繋がりがある。

砂川は、石狩川とその支流である空知川が合流する位置にある。明治時代からこの河川を利用してきた。木材の流送や砂利の採取。水田が開かれ、様々な工業も盛んになっていった。やがて人口が増えて砂川市となり、私は今、この町で暮らしている。

私が登校する通学路に橋があり、その下に川が流れている。目を向けると、レジ袋のゴミやペットボトルなどが、無造作に捨てられていた。最初は、嫌だなあと思った程度だった。でも、ゴミの海洋汚染やマイクロプラスチック問題を知ってからは、真剣に受け止めるようになった。人がポイ捨てるゴミが、水を汚す大きな問題を生み出しているのだ。

水を汚すのは、私たちの水への関心が薄いせいではないだろうか。

人間にとって、なくてはならない水。水は、限りある貴重なものである。この日本でも、水不足や水質汚染は現実のものとなっている。そうした環境の中でも、水道から透明なおいしい水が出てくるのは、その仕事に携わっている人たちの努力の賜だ。下水道や河川を管理するのも、全て人の手によるものである。その人たちに水のことを全て任せるだけでは、大切な水は守りきれない。水を使う私たち一人ひとりが、水を守るために行動を起こすべきなのだ。

川と共に暮らしを築いてきた砂川。先人たちの時代から計り知れない苦勞と努力を重ね、水の恩恵を受けてきた。水道事業を始め、それは現在も続いている。

石狩川は大きな河川であるため、大雨により川が氾濫し、大きな被害を受けてきた。その被害を防ぐために、八年をかけて砂川に大規模な遊

北海道 砂川市立砂川中学校 羽川 莉子

水地を完成させた。遊水地には、大雨が降ったときに石狩川の水を一時的に貯留することで、洪水被害を防ぐ役割がある。そのおかげで、私たちは安心して暮らしているのだ。

砂川の火力発電所では、石狩川の水を利用している。水を加熱して蒸気にし、タービンを回転させて、私たちの暮らしに必要な電力を生み出している。使用済みの温排水は、冬場は流雪溝で歩道の雪を解かすために再利用されている。また、新しくできた化粧品工場も、工場排水を浄化して、トイレの水として再利用している。しかもその水を再び浄化したあと、池に貯めて水に含まれる余分な養分を微生物や植物に吸収させて、よりきれいな水にしてから石狩川へと流しているのだ。

地域の水を守ってきた苦勞の歴史、今も続く水を守るための取組。砂川で暮らす私たち一人ひとりが、しっかりとその思いに応えるべきだと思う。私たちこそが、水の恩恵を直接受けているのだから、水を守るための取組を行っていくことが大切なのだ。

私も、水の出しっぱなしや油や洗剤の排水に気を遣うようになった。ゴミのポイ捨ても絶対にしない。私たちの手で、こうした小さな取組から始めていくことが、水を守ることに繋がっていくのだと思う。中学校でも、地域の清掃活動を行っている。私も参加したとき、水への影響を考えながら、少しでも環境がよくなればと思って、ゴミを拾った。

先日、通学路の川面に鴨がいた。自然豊かな光景に微笑ましく感じた。砂川の遊水地にも、毎年、たくさんの渡り鳥がやってくる。豊かな水が育む豊かな暮らしや自然。水と共に私たちは暮らしている。これからも、水の恩恵に感謝し、水を大切に守りながら、この砂川で暮らしていきたい。

国土交通大臣賞（優秀賞）

災害時協力井戸の活用

三重県 高田中学校 一年 渡辺 心晴

ある夏の暑い日、近所を散歩していると、公園の一角に「この水は飲めません」と注意書きのある井戸を発見した。重いポンプを何度も上下させて、やっと勢いよくはきだされた水を、私は飲みたい気持ちをぐっと堪えて、手を洗った。するとその水は夏の暑さを忘れてしまうくらい冷たく透き通った気持ちのよい水だった。「この水はどこからきているのだろう」ふと疑問に思った。そこで私は井戸について調べてみた。

井戸は人工的に掘ったもので、地下水をくみ上げる目的で使うものだ。井戸は大昔から人々の生活の助けとなってきた。しかし、昔はたくさんあった井戸も近年使われなくなっているものが多いのだそうだ。そして、私が触れた水はいわゆる地下水で、大地に降り注いだ雨や雪が数年、時には数十万年の時間をかけてろ過され、大地に浸透した貴重な資源だったのだ。あの日井戸水に感動した私の「井戸水はどこからくるのか」という疑問は大自然とながっていたのだ。その時、私は「自然ってすごい」と心揺さぶられた。

一月に能登半島地震が起こった。水道管が破壊され、被災者はとても不便な生活を強いられた。飲料水については、ペットボトルなどの備蓄や応急用水などで確保されたが、大量に必要とされる生活用水は十分な供給までに相当な日数がかかった。私たちは生活用水を平均一人当たり一日200〜300リットル使用していて、これはペットボトル500ミリリットルに換算すると約400〜600本分に相当するのだそうだ。私はもし被災したら、たった一日でどこからそれだけの水を得るのだろうと絶句した。

私は今回起きた災害をニュースで目の当たりにし、この先起こると言われている南海トラフ巨大地震に備え、「生活用水の確保」が必要だという意識が強くなった。そこで井戸のことを思い出した。井戸は発災後の生活に役立つのではないかと考えた。さらに興味を持った私は近所に他の井戸があるのか知りたくなり、探索を始めた。そして隣町に「災害時協力井戸」と掲示してある井戸を発見した。後にこの井戸について調べてみると、井戸の所有者の

善意で「災害によって断水が起こったときに誰でも使用してよい」と市役所に登録されている井戸であると知った。さらに、市役所のホームページを見てみると、災害時協力井戸がある場所が表示されているマップも見ることができた。これがあれば、断水が起きた時、みんなが必要な水を確保できるのではないかと思った反面、どれだけの人が災害時協力井戸を知っているのかということを見ると、もっと多くの地域住民がこのことを知るべきなのではないかと思った。せっかく困ったときに使える井戸があるのに、知らない人がいるのはあまりにももったいない。そこで私は、より多くの人に災害時協力井戸の位置や活用法を認知・把握してもらうため、ポスターを制作しマンションや公民館の掲示板に貼りだしてみようかと思った。ポスターを貼ることで災害時協力井戸の存在を知り、いざという時に備えることができる人も増えるだろう。またポスターだけでなく地域の人にも声をかけることで、日頃からコミュニケーションをとり、災害が起きたときに共助が実現するのではないかと考えた。

私たちは、自然がもたらす災害を避けることはできない。しかし、その自然の恵みを有効に使うことで、発災後の不便な生活にもゆとりが持てるようになるのではないか。だから私はたとえ小さいことだとしても、少しでも多くの人に「災害時協力井戸」の存在を伝えたい。

環境大臣賞（優秀賞）

あまい水

静岡県 不二聖心女子学院中学校 二年 小池 翔子

私の思い浮かべる水辺には、いつもホタルが飛んでいる。我が家の庭に湧水が流れており、毎年初夏になるとゲンジボタルがチロチロ飛ぶ。それを眺めるのが私の夏の風物詩である。

だから私にとってホタルは、身近な生き物だった。幼い頃はどの川にもホタルがいるものと思っていたから、「ホタルはきれいな水にしか住めないんだよ。汚い水にはまじりまじりって言って寄りつかない。だからうちの水はきれいなだね。」と、祖母に言われたときは驚いたものだ。そして同時に、誇らしくも思った。それまで当たり前に見てきたホタルと水が宝物のように思えてきた。

この宝物を守らねばという使命感を心に宿した幼い私は、その年のカワニナ撒きをする祖母と兄についていった。カワニナはホタルの幼虫の餌となる水巻貝で、ホタルが元気に育つように、庭の小川に少しずつ足していくのだ。まず祖母が、プラスチックの容器からカワニナを出し、小川の上からばらばらと撒く。次に兄がぼとぼと水に落とす。順番を待つ私は、この神聖な儀式に、肺が縮むほど緊張していた。ついにカワニナを渡された私は、焦って容器ごと小川の中へ放り投げてしまった。ぼちゃん、と大きな音が鳴り、祖母は笑い、兄は呆れながら容器を拾いに行き、私は自分の立てた水音にびっくりして泣いた。私の水辺での思い出の一つだ。その年もホタルはたくさん飛んだ。

祖母が亡くなって初めての夏、私はカワニナを撒き忘れた。カワニナ撒きは祖母が中心になって行っていたもので、法事やら何やらがやると落ち着いた頃には、ホタルの幼虫の季節を過ぎてしまっていたのだ。もうそれなりに大きくなっていった私は、ホタルがもういなくなっているかもしれないと不安に感じつつ、夜の小川まで下りていった。着いた先は真っ暗だった。ホタルの光は一つもない。なんだか怖くなって、手を叩いてホタルを呼んでみた。すると視界の端がチカチカする。その方を

見る。やっぱりホタルだった。夢中で手を叩く。叩く度に光が増える。増えていく度に安心した。昔から変わらずに流れるきれいな水が、私が忘れてしまっていた間もホタルたちを守ってくれたのだと思った。

「来い、来い、ホータル来い。こっちの水はあーまいぞ。あっちの水はにーがいぞ。」そう歌って、祖母と一緒にホタルを呼んだこともある。そしてホタルそのものだけでなく、ホタルをめぐる様々な思い出が私の宝物となっていることに気づいた。あまくきれいな水が、私のその宝物を守ってくれたように、私もこの水をずっと変わらず守っていこうと思った。

しかし全国的にみると、ホタルなどの水生生物は年々数を減らしているらしい。これは、河川の汚れ、特に中性洗剤による汚物の沈殿や、農薬や化学肥料の使用により、水が汚れたり餌が減少したりしたことが原因だそう。私は美しい水と一緒に、そこに生きていた生き物や風景、そこに住む人々の思い出もなくなってしまったら悲しいと思った。そして、これらをこの先も守っていくためにはどうしたらよいかを考えた。考えた結果、まずは身近にある川の清掃活動に参加することにした。行動を起こすにあたって、世界中の水をきれいに、だともまだ私には広すぎてピンとこない。けれど、近所の川のごみを拾う、であれば、問題を具体的なものとして肌で感じられるからだ。もちろん、日々の生活の中でも水を汚さずに節水などを心がけていく。

私はホタルや小川が昔と変わらずにあることが嬉しいし、安心する。人は水と共に生きてきた。海や川の思い出を持つ人も多くいるだろう。皆がその思い出を安心して大切にできるよう、私は水をこれからも守っていききたい。

全日本中学校長会会長賞（優秀賞）

「輝け 日本の天然水」

宮崎県 宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 三年 崎田 莉央

私は今年、目の手術をします。小さい頃から目が悪かったので、毎年、目の神様のいる神社のお祭りに行っています。そこでは、神社の山の湧き水である御神水が販売されており、目を洗うと眼病が治ると言われています。この湧き水は、誰でも自由に汲むことができるので、行ってみることにしました。

実際に見てみると、本当に純粋な天然水で、心が洗われていくような心地良さを感じました。手に湧き水を溜め、「目が良くなりますように」と願いをこめて目を洗いました。

並んでいる人の中には、湧き水を飲んでいる人もいました。普段水道水を使用して生活している私は、何も殺菌せずに飲める湧き水があることを知ってとても驚きました。

そこで私は、災害などで水道水が使えなくなった際に、天然の湧き水や井戸水、川の水を生活用水として活用できるのではないかと思いました。被災した際に必要な三日分の水を確保できなかったときに、地域の天然水が活用できることを知っていたら心強いと思います。そして、その天然水をきれいに保つことが、災害時の安定した生活につながります。

今から十九年前の九月に台風十四号が宮崎県を襲い、記録的な豪雨をもたらしました。多くの河川が氾濫し、一級河川、大淀川の下流域である宮崎市は、大きな被害をうけました。宮崎市の多くの地域で長い間断水になり、祖母の家でも水が出なくなりました。しかし、祖母の家には、キッチンや手洗い場、お風呂場に井戸水が通っているため、不自由なく暮らすことができたそうです。お風呂にも毎日入ることができ、洗濯もできたのは井戸水のおかげだと話してくれました。

私は祖母の話聞いて、大淀川について調べてみようと思い、「大淀川学習館」という施設に行きました。その施設には、古くて大きい「揚水ポンプ」が展示されています。揚水ポンプは、大淀川を直接汲み上げる

もので、昔から発生していた大きな干ばつから救うために昭和二年に購入されたものでした。当時、水騒動まで発生した干ばつでしたが、この揚水ポンプを設置してからは、田畑が潤い、平和な生活を取り戻せたそうです。

今も昔も、井戸や揚水ポンプなどの技術と天然水に助けられていることが分かりました。今は水道水があるため不自由なく暮らせていますが、いつ災害がおきて、日常生活が著しく制限されるかは分かりません。備蓄水の一つの選択肢として、地域の天然水を活用するために、必要なことを考えました。それは、身近にある井戸水や湧き水、川の場所を把握することです。さらに、きれいな天然水を私達が後世に残すことも忘れてはいけません。

そこで私は、宮崎市にある湧き水をインターネットで調べました。県内には百ほどあるようですが、宮崎市には見つかりませんでした。しかし、私は実際に天然の湧き水を見ています。もしかすると、湧き出ている量が少ないなどの理由で、湧き水として認められていないのかもしれないと思いました。

インターネットにはのっていないなくても、確かに存在する湧き水があります。それを知るのには、地域に長く住む方々です。話を聞いてみると、意外な場所に湧き水を発見することができるとは思いません。

日本は天然水に恵まれている豊かな国です。きれいな水を守り、輝かせて未来へ繋いでいく。これが日本に住む私達の使命だと思います。水がきれいだからこそ、困ったときに活用することができるのです。私個人でできることは小さなことかもしれませんが、それが積み重なれば、水資源を守るにつながります。「これが日本の天然水だよ」と後世で胸をはれるようになりたい。湧き水と井戸水に触れて多くのことを学んだ私は、強くそう思いました。

水の週間実行委員会会長賞（優秀賞）

水道大国ニッポン

ベトナム ホーチミン日本人学校 三年 中田 風咲

「うわ、また出た。」目をこすりながら蛇口をひねった直後、水道が今にも破裂しそうな音をだしながら、勢いよく出てきた。小さな汚れをたくさん含んでいる茶色に染まった水を見て、今日も落胆する。そうだ、昨日は断水だった。別に、驚いたり叫んだりはいらない。この水を見るのが何回目か数えきれないからだ。日本から飛行機で約六時間、カンカン照りの太陽とおびただしい数のセミの鳴き声と共に始まるベトナム、ホーチミンの朝だ。

人口一億人目前、現在急激な経済成長を遂げている国ベトナムでは、年々増え続けている高層ビルの建設や交通機関の発達に伴う、深刻な環境問題が課題となっている。その中でも近年、より問題視されている環境問題が「水質汚濁」だ。ベトナムの水質汚濁の原因は生活排水や産業排水、市民による河川や湖へのゴミのポイ捨てなど複数の要因があるといわれている。

私がベトナムに越してきてから約二年、日々の日常の中で「汚い水」を感じる機会が沢山あった。大雨が降る度に排水溝から汚い水があふれ出し、バイクを降りて押している人々の姿。有名なメコン川の船の中からみえるのは、透明とは正反対の水。これまで私が暮らしてきたシンガポールや日本とはかけ離れていた。

「なぜ日本の水は、綺麗で安全なのか。」様々な場面で、幾度も頭に浮かんできた疑問。この疑問を抱えながら、ベトナムから初めて日本に一時帰国をしたとき、この疑問の答えが少し見えてきた。

祖母の家で夕食の準備をしている時、祖母が当たり前のようになみそ汁に使う水を蛇口から鍋に入れていた。私はベトナムの蛇口の水が頭をよぎり、驚きながら「え、蛇口の水で大丈夫？」と、とっさに口にしてしまった。すると祖母は、笑いながら私にこういった。「何を言っているの。ここは日本よ？大丈夫に決まっているじゃない。」私はこの言葉を聞いた時、祖母の日本の水への信頼の強さに驚いた。この祖母とのエピソードだけにとどまらず、公衆トイレの洗面台の水で歯磨きをしている女性、公園の蛇口から水を飲んでい

る少年など東南アジアの国々ではとても見かけられないような光景をベトナムに帰るまでの間、たくさん目の当たりにし、日本人の自国の水への信頼の大きさを強く実感することができた。日本の水がこの信頼を得るまでには、きつと多くの方々の努力と時間が費やされてきたことだろう。私は水の整備に尽力をされた先人の方々へ思いを馳せた。

日本は明治十年に起きたコレラの大流行をきっかけに、明治から大正、昭和、平成、そして令和、約百四十年の時を超えて、上水道の普及率九割、下水道の普及率八割を超える世界有数の水に恵まれた国に発展したとのこと。現代の日本に住む人々が祖母のように、当たり前のように水道水を使っているのには、日本の水資源を豊富に手に入れられる自然の恵みに加え、先人たちの努力の賜物であることを身に染みて感じた。

現在、百九十六か国ある国々の中で水道水が安全に飲める国は僅か十二か国だという。安心して飲める水が身近になく、苦労している人々が大多数の世界の中で、蛇口の水が飲めるという恵まれた環境の日本に生まれたことに、私たち日本人は感謝しなければならないと思った。

私が住むベトナムでも、日本のJICAを含めた支援団体により、下水道・排水システムの整備の支援が行われているという。二〇五〇年までの先進国入りを目指すベトナムにとって、水の整備は重大な課題の一つであるだろう。二十六年後、私は四十歳を迎えているが、その時にはベトナムに足を運び、ベトナムの蛇口をひねって、透明の綺麗な水を見て、感激の声をあげてみたい。

独立行政法人水資源機構理事長賞（優秀賞）

おばあちゃんとの旅

香川県 高松市立国分寺中学校 三年 山下 花音

「あんた、水使いすぎやで。」

私のおばあちゃんの口癖である。正直、おばあちゃんの気持ちが一番最初は理解できなかった。今では、蛇口をひねったら、いつでも水道から水はでてくるし、使いすぎても世界中から水がなくなるなんてありえない。時代遅れの口癖であると思い、いつも聞き流していた。しかし、おばあちゃんが行ったため池と香川用水記念公園、おばあちゃんの農業の手伝いという経験が私の水に対するイメージを大きく変えた。

瀬戸内海型気候に属する私たちの地元である香川県は、非常に温暖でかつ乾燥した気候を持つことで有名だ。年間降水量も、千百五十ミリと、他県と比較しても非常に少ないという特徴がある。私たち讃岐県民が「うどん県」と誇りをもつ、うどんに使われる小麦もこのような気候だからこそ育てることが可能である。しかし、私は、この気候がどれほど多くの人の暮らしを困らせ、過去の人々がそのことに立ち向かって今の私たちの快適な暮らしにつながっているのかを全く知らなかった。私は、おばあちゃんに連れられて、ため池と香川用水記念公園に行き、香川県の水の歴史について学ぶことになった。香川県は昔、「旱天五日に及べば水湿の潤いなく霖雨二日に及べば洪水の恐れあり」と言われるほど、飢餓者が続出するほど雨が降らない時期が長期間続いたり、時には、大雨による鉄砲水や暴風で民家や農作物等に深刻な影響を与えたりするなど、人々を悩ましていた。それに立ち向かったのが西嶋八兵衛をはじめとする先人たちなのである。彼らは、数年で九十余のため池を築造したり、東西に流れる香東川とよばれる川を一本化したりして問題解決を図ったのである。また、その何十年後に、ため池に加えてより十分な用水の確保を行うため、香川用水が建設されることになった。香川用水とは、高知県の早明浦ダムを水源に、徳島県の池田ダムを経て、香川県に水が供給されている多目的水路である。このように、今私たちが当たり前のように水を使っていることは、当たり前前の自然の成り行きではなく、多

くの人々の苦労や努力、他県との協力があるからこそだと気づかされた瞬間であった。おばあちゃんは、そのことを私に伝えたかったのだと思う。

私のおばあちゃんは、農家であり毎年多くの農作物を育てている。この夏私は、農家を少し手伝った。すると想像以上に大変であった。朝と夜に満遍なく水をかけなくてはならない。気温が三十度を超えても台風が接近していて風が強くなっている、水をかけたり、手入れをしたりしなければならぬ。おばあちゃんに圧倒されるばかりだった。おばあちゃんの家で食べた、ミニトマトや茄子、キュウリのサラダは、水分を多く含んでいて、とてもおいしかった。おばあちゃんは、「今は昔よりもほんまに楽になったわ。」と言っていた。昔は、水を井戸からくむ作業から始めないといけないため、今よりもっと労力をかけなければならなかったそう。おばあちゃんとの旅によって、私は水を使うことの大切さや、先人たちの努力に感謝しなければならぬことを肌で感じるようになった。お盆になって、はとがとおばあちゃんの家遊びに来て、鉄砲で遊ぶため、水を大量に使っていた。

「あんた、水使いすぎやで。」

おばあちゃんの言葉がいつもより新鮮に聞こえた。

シャワーズ賞（優秀賞）

未来へ繋ぐ水源

徳島県 鳴門教育大学附属中学校 二年 柳本 紗那

「いただきます。」

私は、祖父母の作るお米が大好きだ。我が家の米作りは、少し変わっている。

私の住んでいる吉野川市は、日本三大暴れ川として有名な吉野川が、県を東西に流れている。この川のおかげで、徳島県では水不足に陥ることが、あまりない。だが、私の住んでいる所は、山の麓であり、米作りの際、水を引く川がない。そのため、我が家の米作りの水源は、家のすぐ横にある小さな皿池を利用する。皿池とは、窪んだ土地の周りに堤防を作って築いた、小さなため池のことだ。

毎年、稲が丈夫に育つまでの約四ヶ月間、皿池の水を常にはって水田に水を送り続けなければならない。祖父はその期間、毎日皿池の様子を確認し、水田の水位を調節し、管理してくれている。私は、田植えを終えたばかりの小さな稲苗が、朝日に包まれ、きらきらとした水田の中でしっかりと根を張って踏ん張っている、その光景が大好きだ。なんだか私も頑張ろうと背筋がピンとする。そして、水は、稲が立派に育つよう見守り、しっかりと支えている。稲にとって水は母のような存在なのだろう。秋になると、たくさん水を吸って大きくなった稲を家族総出で収穫する。我が家は、昔ながらの方法で、稲を刈って束ね、それを逆さにし、一週間程度干すのだ。そうすることによって、茎の養分が米に行き渡り、太陽に干すことによってアミノ酸が増え、旨味が増すそう。この手間暇かけた我が家のお米を近所の甘く美味しい湧水で炊くと、最高の逸品となる。

しかし、数年前の梅雨時、雨がほとんど降らず、皿池の水位が低下し、干ばつ被害に直面した。そのとき、家族総出で何往復もしながら川の水を大きなタンクで運んだのを覚えている。これは、祖父も経験したことがないと言っていた。私の母が小さいとき、この皿池の水位は今よりはるかに増していたそうだ。この皿池は、カブトエビやヤゴ、渡り鳥が飛

んでくる。ついこの間、皿池で沢蟹を見つけた。沢蟹を見つけたのは、初めてだった。たくさん生物が生息しているという事は、生物たちにとっても、良い環境なのだろう。皿池は、たくさん生物たちにとって、生きるための大切な住処なのだ。

私は、今まで梅雨に降る雨が好きではなかった。気温が高く、雨が降ることで湿度も上がり、とても生活しづらい。おまけに、雨が降ること通学にも影響がでる。だが、この雨こそが、米作りに必要不可欠な水源となることを知り、考えが180度変化した。この雨が山に降り、やがて川や皿池に集まり、私たちの生活に直結する。そして、私たちはこの雨によって、この水によって、今生きているのだ。この美味しいと言って飲んでいる水、美味しいと言って食べているお米や野菜、それはいつまでもあり続けるものではない。

近年、地球温暖化が進み、気候変動が増加している。降水量が多くても少なくても、気温が高くても低くてもいけない。ちょうどいいころ合いが必要だ。私たちはこの資源を守り続ける義務がある。水は、私たちにとって一番身近なものであり、だからこそ、その大切さや危機に気づきにくい。

私は、この我が家の米作りを受け継いでいくために、皿池を、そして水を守っていかなければいけない。この冬、祖父は少しでも皿池に水が溜まるよう、重機で掘って整備した。私も美味しい米が滞りなく作れるように、そして生息する生物たちが安心して暮らせるようにと願い、皿池に落ち込んでいた、竹林や木を撤去するのを手伝った。これから私にできることを探し続けたい。

あなたも身近なものを通じて、水を守るためにできることは何か考えてみてほしい。これはどうなっているのだろうと思ったとき、それがあなたの新たな始まりなのだ。

中央審査会特別賞（優秀賞）

「地域をつなぐ水」

宮崎県 宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 一年 林 はる

私は、宮崎県綾町という人口七千人ほどの町に住んでいます。綾町には、深い照葉樹林が広がっていて、そこから湧き出す水は澄んでいて名水百選に選ばれた「綾川湧水群」があり、ユネスコエコパークに認定されています。

小学校の授業で、そんな綾町を流れる川からとった水道水と下流の宮崎市の水を飲み比べると、綾町の水のほうがおいしいと思いました。しかし、同じ綾町でも家で飲んでいる水はもっとおいしいと気づき、家の水道水について調べることにしました。

私の家は綾町の中心部から離れた、山の中の尾立という地区にあります。尾立地区では、綾町の水道水ではなく、尾立水道組合の水を使っています。私は、長年水道組合の係をしていたおじいさんに話を聞いてみました。

尾立地区では、五十年前程前にみんなの総意で水道について決め管理する水道組合という仕組みを作りました。役場が供給する上水道ではなく、地域の人が交代で機械係、会計係などの仕事を行い、水道水に入れる薬についても自分達で考えて決めることができます。

川の水は雨が降るとろ過しても濁ってしまうため、綾北川の地下二十メートルのところから、ポンプで水をくみ上げています。

この水は、まず養豚センターという施設のタンクに行き、そこから水道組合のタンクへと運ばれます。そして、そこで四段階に分けてろ過されます。その後およそ三十世帯へ運ばれていきます。

尾立の水がおいしい理由の一つに、消毒薬が入っていないということがあります。消毒をしなくても、菌がほとんど含まれていません。さらに、ミネラルやカルシウムなどの栄養分も多く、pHという数値も宮崎市は五・二、綾町は五・八と酸性ですが、尾立は七・一と中性に近く、体にもいいそうです。

尾立の水道組合で大変なことは、水道を利用している全世帯の人が参加して、自分たちでタンクやポンプ場の草刈りや掃除を行い、二か月に一度検針をすることです。また、台風が来ると電線が森の中を通っているため停電しやすく、停電するとポンプが止まって、断水してしまうこともあります。

私は、水道組合のタンクの見学がしたいと思い、母と一緒に見に行きました。山の中に鍵のかかった門があり、鍵を開けて急な坂を上っていくと、山の頂上にタンクがありました。タンクは、思っていたよりも深く、底に砂が沈んでいて、上の方のとてもきれいな水が、少しずつ次の槽に流れていました。タンクでろ過するだけで、こんなに水がきれいになると知り、驚きました。

上水道の場合は大腸菌が少しでも入っているといけなので消毒する必要がありますが、簡易水道は、水を使う人々が消毒するかどうかを自分達の責任で決めることができます。尾立の水もほんの少量の大腸菌が検出されることがありますが、その危険性を分かった上で、消毒薬の味がしないおいしい水を選択してきました。

このような問題について、色々な人の多様な考えを聞き合うことで、みんなが納得いく水道水を作っています。水を通して地域の人々がつながることができているのではないかと思います。

自分が毎日飲んでいる水について知ったことで、水を守ることは川や森を守ると同時に地域の人々のつながりを大切にしていくことだと考えるようになりました。これからも、地域の一員として、水道組合の清掃に参加するなど、尾立ならではの水道水を大切にしていきたいと思っています。

「水の日」・「水の週間」について

「水の日」及び「水の週間」については、昭和 52 年 5 月の閣議了解を基にその行事等を実施して参りました。諸行事の実施により我が国の水問題の解決を図り、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することを目的に、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている 8 月の初日である 8 月 1 日を「水の日」、この日を初日とする一週間を「水の週間」としております。

「水の日」及び「水の週間」について

閣議了解
昭和52年 5 月31日

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年 8 月 1 日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

平成 26 年 3 月に水循環基本法が成立しました。本法律では、水が健全に循環し、そのもたらす恵沢を将来にわたり享受できるよう、水循環に関わる施策を包括的に進めていくことが不可欠であるとされました。また、同法第 10 条において、「水の日」が 8 月 1 日と規定され、国及び地方公共団体は水の日趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならないとされています。

水循環基本法（平成二十六年法律第十六号）

（水の日）

第十条 国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、水の日を設ける。

2 水の日は、八月一日とする。

3 国及び地方公共団体は、水の日趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならない。

全日本中学生水の作文コンクールは、広く国民が水の重要性についての理解と関心を深めるための普及行事として、「水の日」・「水の週間」行事に位置付け実施しているものです。



○ 2 0 1 0 熊本県くまモン
水の国くまもと

発 行 者：熊本県
所 属：環境立県推進課
発行年度：2 0 2 4 年度